

2025年度

# 年次報告書

公益財団法人ヤマト福祉財団

# 目 次

1. 2025 年度事業報告書	1
<b>(公1) 助成事業</b>	
I. 障がいのある大学生への奨学金の支給	
II. 2025 年度ヤマト福祉財団助成金	
1. 障がい者給料増額助成金	
2. 障がい者福祉助成金	
<b>(公2) 研修・育成事業</b>	
2025 年度障がい者の働く場パワーアップフォーラム実施報告	
2025 年度実践塾実施報告	
2025 年度「農福経営実践塾」実施報告	
2025 年度「販路拡大研究会」実施報告	
「働く力と工賃向上」テキスト制作委員会の報告	
<b>(公3) 顕彰事業</b>	
ヤマト福祉財団小倉昌男賞の贈呈	
<b>(公5) 復興再生事業</b>	
JDF 能登半島支援センターへの助成	
<b>(公6) 団体・活動支援等事業</b>	
(社福) ヤマト自立センターの報告	
日本障害フォーラム (JDF) の報告	
自然栽培パーティ ((一社) 農福連携自然栽培パーティ全国協議会) の報告	
全 A ネット ((認定 NPO) 就労継続支援 A 型事業所全国協議会) の報告	
(NPO) 医療的ケア児者と家族を社会につなぐネットワークの報告	
「ゆいジョブ! 実行委員会」活動報告	
東京 2025 デフリンピック (一財) 全日本ろうあ連盟への支援	
ヤマトグループボランティアプロジェクトの活動報告	
2. 2025 年度決算概要	65
貸借対照表	
正味財産増減計算書	
正味財産増減計算書内訳表	
財務諸表に関する注記	
財産目録	
附属明細書	
事業報告附属明細書	
収支計算書	
監査報告書	
3. 補 足	79
2025 年度寄付金寄贈者名簿	
賛助会員数一覧	
役員名簿	
4. 2026 年度事業計画書	85
同 収支計算書	
資金調達及び設備投資の見込みについて	

# 1. 2025年度事業報告書



# 2025年度事業報告書

(自・2025年4月1日～至・2026年3月31日)

## 1. 庶務事項

- (1) 財団設立年月日 1993年9月10日
- (2) 基本財産  
投資有価証券  
ヤマトホールディングス株式会社(株式)  
3,554,500株 6,031百万円
- (3) 役員等
- |                   |    |
|-------------------|----|
| ①理事長              | 1名 |
| ②理事               | 8名 |
| ③監事               | 2名 |
| ④評議員              | 6名 |
| ⑤福祉助成金選考委員        | 5名 |
| ⑥ヤマト福祉財団小倉昌男賞選考委員 | 5名 |
- (4) 賛助会員  
個人会員 65,192名
- (5) 事務局
- |       |    |
|-------|----|
| ①常務理事 | 1名 |
| ②事務局長 | 1名 |
| ③職員   | 4名 |

## 2. 事業報告

2025年度は、企業等における合理的配慮の提供が定着し始めるとともに、「就労選択支援」制度が開始され、障がいのある方本人が、適性や希望に基づき客観的に働き方を選択できる環境が整備されました。また、東京2025デフリンピックでは、AIによるリアルタイム文字起こしやきこえない・きこえにくい方による手話言語解説が実展開されるなど、情報バリアフリーが飛躍的に加速した1年となりました。

こうした中、当財団では新たに、農業を営む障がい者福祉事業所の経営者・事業責任者を対象に、経営を基礎から学び直し理論を実践につなげるための「農福経営実践塾」を開講しました。また、旧新堂塾OB・OG有志による「働く力と工賃向上テキスト制作委員会」を立ち上げ、障がいのある方の働く力を伸ばし、働く「態度」を育てるためのテキストを刊行しました。このほか、デフリンピック関連では、国際手話通訳や手話言語アナウンサー等の普及に向けた助成を行いました。

なお、ヤマト運輸株式会社の組織改編により、長年にわたり地域で財団業務を支えてこられた「事務長」職は廃止となり、その役割は各主管支店およびグループ各社に新設された「障がい者福祉担当者」へと承継されました。

**(公1)助成事業****①奨学金**

障がい乗り越えて、社会の役に立ちたいと学ぶ大学生のために、月5万円（返済不要）の奨学金を支給しています。本年度は、2025年2月5日から3月31日までを応募書類請求期間、4月1日から5月1日を申請期間とし、78名の応募がありました。6月10日に開催の選考委員会では下記12名を新たに選考し、奨学生は40名となりました。

氏名	学年	在学大学	学部学科
井内 綾乃	1年生	東京学芸大学	教育学部 教育支援課程 ソーシャルワークコース
古西 玄武	1年生	産業医科大学	医学部 医学科
坂上 美帆	1年生	筑波技術大学	産業技術学部 産業情報学科
佐々木 一真	1年生	大阪工業大学	工学部 建築学科
佐野 夢果	1年生	慶応義塾大学	環境情報学部 環境情報学科
中村 春樹	1年生	信州大学	工学部 物質化学科
野口 真優	1年生	関西国際大学	教育学部 教育福祉学科
政岩 琉汰	1年生	同志社大学	法学部 政治学科
花城 さくら	2年生	琉球大学	工学部 工学科
松本 響	2年生	鳥取大学	農学部 共同獣医学科
高嶋 雄大	3年生	早稲田大学	基幹理工学部 表現工学科
西垣内 穂乃香	3年生	広島国際大学	健康科学部 心理学科

**②助成金**

昨年に引き続き、助成金として、①障がい者の給料増額を目的とする「障がい者給料増額支援助成金」（50万円から500万円の範囲）と、②ボランティア活動等を含め障がい者の幸せにつながる事業・活動を目的とする「障がい者福祉助成金」（上限100万円）の2つの部門を設定しました。今年度は、2024年10月1日から11月30日までを公募期間とし、265件の応募がありました。2025年3月25日に開催の選考委員会では、合計62件の助成対象事業所・団体を決定。5月以降、ヤマト運輸（株）の協力を得ながら、順次各地で贈呈式を開催しました。

助成部門	応募	決定	決定金額
① 障がい者給料増額支援助成金	133件	34件	111,460千円
② 障がい者福祉助成金 (会議・講演会、ボランティア活動、 文化・スポーツ活動、調査・研究・出版)	132件	28件	20,290千円
合計	265件	62件	131,750千円

※助成先一覧 11～31ページ

## (公2) 研修・育成事業

### ① セミナー事業 「障がい者の働く場パワーアップフォーラム」

本年度のパワーアップフォーラムは、東京と名古屋の2会場で開催しました。東京会場では「働く力を掘り起こす」、名古屋会場では「障がいのある人が自立するために働く場に求めていること」をテーマに掲げています。今回も対面での交流を重視し、参加者が登壇者と直接対話できる名刺交換会を設けました。参加人数は全2回で221名、累計14,081名となりました。また、当日参加ができない方や再視聴を希望される方を対象に3月末まで動画配信を行い、のべ約2,100回の視聴がありました。

開催地	会場	開催日	参加人数
東京	全国社会福祉協議会 灘尾ホール	7月4日	108人
名古屋	名古屋産業振興公社 デザインホール	9月12日	113人
合 計 (累 計)			221人 (14,081人)

### ② 育成・調査研究

#### I. 実践塾

熊田芳江氏（第14回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者）の統括により、林博文氏（第16回同賞受賞者）並びに農福連携実践塾の卒業生でもある小淵久徳氏（第26回同賞受賞者）を塾長とする「農福経営実践塾」を新たに開講しました。この塾は、農業を事業とする福祉事業所の経営者・事業責任者を対象とし、各圃場で農作業や栽培技術を実践的に学ぶことはもとより、就労支援や事業所経営の取り組み方や改善方法に関するノウハウを、1泊2日の宿泊研修会やオンライン研修会などで2年間にわたり基礎から学びます。今年度は3回の宿泊研修会と2回のオンライン研修会を実施しました。

#### II. 販路拡大研究会

2023年度より開始した「販路拡大研究会」については、2025年度も継続して伴走支援を実施しました。具体的には、発足当初より会長としてご指導いただいている中崎ひとみ氏（第10回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者）による「お菓子の勉強研究会」を計4回開催し、製造技術の向上を図りました。また広島県内にある就労系事業所の有志メンバーが立ち上げた「ヒロシマルクト」に対しては、8月31日のマルシェ開催を支援しました。こうした各活動を通じ、福祉事業所の収益向上を実現する新たな販路開拓を推進しました。

#### III. 働く力と工賃向上テキスト制作委員会

2025年4月に活動をスタートした「働く力と工賃向上テキスト制作委員会」は、東京学芸大学名誉教授（博士（教育学）、社会福祉法人武蔵野千川福祉会理事長）菅野敦氏のご指導のもと、旧新堂塾OB・OG有志が実践報告の執筆に取り組み、障がいのある方の「働く力を伸ばし、働く『態度』を育てる」という菅野氏の理論を体系化し、2026年3月に『働く力と工賃向上 障がいのある方が働くとは』を刊行しました。また、来期に計画している本テキストを活用した支援者向けの基礎セミナー開催に向けた準備に着手しました。

### (公3) 顕彰事業

障がい者の経済的な自立やノーマライゼーションに貢献した個人を表彰するため、第26回ヤマト福祉財団小倉昌男賞の贈呈を行いました。6月1日から8月31日まで公募を行い、10月23日の選考委員会で、久保田静子氏(社会福祉法人わかば福祉会理事長 兵庫県加古川市)と小淵久徳氏(社会福祉法人ゆずりは会理事 菜の花管理者 群馬県前橋市)の受賞が決定。12月4日、一般社団法人日本工業倶楽部にて贈呈式を開催し、お二人の受賞を祝福しました。

久保田静子氏は、56年間に亘り「園生」たちの幸せづくりに尽力し、100歳を迎えた今もなお、現役の理事長として福祉の最前線で活躍を続けている熱意が高く評価されました。小淵久徳氏は、農業において利用者の力を伸ばしながら生産量の飛躍的な増大と高工賃を実現し、新時代の福祉の担い手として今後のさらなる活躍が期待できることが高く評価されました。

### (公4) 広報事業

広報誌「財団ニュース」の発行頻度を2025年度より年2回に変更しました。本年度は第86号および第87号を発行し、各号ともヤマトグループで働く社員の自宅へ直接配送したほか、一般希望者や福祉事業所に対し、計約5,000部を無料配布しました。また、誌面データは当財団ホームページにも掲載し、幅広い情報発信と広報活動に努めました。

### (公5) 復興・再生支援事業

2024年1月の「令和6年能登半島地震」により被災した障がい者および障がい者福祉事業所等を支援するため、2024年5月に日本障害フォーラム(JDF)が石川県七尾市に開設した「能登半島地震支援センター」に対し、本年度も継続して運営資金を助成しました。同センターでは2026年3月末まで、JDFを構成する全国13の障がい者関係団体からのべ550名を超えるボランティアを受け入れ、地域で生活する障がい者への個別支援を展開しました。

## (公6) 団体・活動支援等事業

### I. 団体・活動支援 i) ヤマト自立センター

社会福祉法人ヤマト自立センター（スワン工舎新座・スワン工舎羽田）では、今期14名（累計282名）が一般就労を果たしたほか、17名（累計129名）の就労定着支援を実施しました。また、2011年に開始した就業・生活支援事業では、今期新たに45名が登録し、就業者61名、実習者33名の実績を上げました。

このほか、4月19日にはスワン工舎から一般企業へ就職した卒業者が一堂に会する「第17回卒業生の集い」が開催されました。当日は、職員から16名の新卒業者に向けたヘールが送られたほか、本年度も引き続き、永年勤続者の就職先ご担当者を来賓としてお招きし、6名の永年勤続者を祝福しました。

### ii) 日本障害フォーラムによる「障害者の権利条約」に関する事業

当財団が（公財）助成財団センターを窓口として共同助成を行う日本障害フォーラム（JDF）は、設立21年目を迎えました。12月に開催された全国フォーラム（於：全国社会福祉協議会灘尾ホール）では、障がい者の人権に関する世界の最新動向を共有するとともに、条約の実施を通じた国内課題の解決について議論を深めました。

また1月には、能登半島地震から2年という節目に当たり、石川県七尾市にて地域フォーラムを開催。被災した障がい者の暮らしと復興に向けた具体的な取り組みが共有されました。

このほか、国内法制度の改善に向けて、超党派の議員連盟や各省庁との意見交換を実施するなど、国連からの総括所見を踏まえた「障害者権利条約」の実施促進と、インクルーシブな社会の実現に向けた事業に積極的に取り組みました。

### iii) 「自然栽培パーティ」プロジェクト

水稲自然栽培検証プロジェクトから発展した「一般社団法人農福連携自然栽培パーティ全国協議会」は、発足10年目の節目を迎えました。本年度は11月22日、愛知県の豊田市福祉センターにて「第10回自然栽培パーティ全国フォーラム in 豊田市」を開催。当日は、全国の福祉事業所、農業・行政・企業関係者など400名を超える参加者が集いました。

フォーラムでは、10年間の歩みを振り返るトークセッションや県内施設による実践報告を通じ、農業による障がい者の就労支援と地域連携の広がりを再確認しました。なお、自然栽培パーティの会員数は、3月末現在で140事業所となっています。

### iv) 全Aネットによる「良き就労継続支援A型事業所の拡大支援事業」

全国のA型事業所の経営健全化と、障がいのある人のディーセント・ワーク実現を推進するため、認定NPO法人就労継続支援A型事業所全国協議会（全Aネット）が展開する以下の2事業に対し、助成を実施しました。

#### ① 「優良A型事業所認定制度」の運用支援

2024年度に新設された「ベーシック認定」を含め、本年度も新規および更新審査を着実に実施しました。制度の裾野が広がったことで、全国で「良き経営」のモデルとなる事業所のネットワークがさらに強固なものとなりました。

## ② 就労支援セミナーの開催と優良事例の普及

全国4ヵ所でセミナーを開催し、経営ガバナンスの重要性を啓発しました。併せて、認定事業所から選定した16件の「好事例集」を制作・公開し、全国の事業所が具体的な運営ノウハウを実践に活かすための指針を提供しました。

### v) 医療ケア児者と家族を支える団体の活動支援

NPO法人医療的ケア児者と家族を社会につなぐネットワーク(ブリッジネットワーク)は、医療的ケア児者の家族の就労に向けた仕組みづくりの一環として、2025年3月に開催した「夢応援セミナー」の取り組みをYouTube動画で配信したほか、スマホだけで始められる動画編集の入門講座として「映像塾」を新規開講しました。また、資格取得支援(ブリッジ奨学金)についても継続実施し、新たに10名の方が資格取得に取り組みました。このほか、ホームページやInstagramを通じて「ブリッジまんが」やYouTubeでのPR動画を公開し、法人の取り組みや医療的ケア児者の社会的なサポートの重要性を伝えました。

### vi) ゆいジョブ!プロジェクト

「ゆいジョブ!」は、2018年のパワーアップフォーラム沖縄で結成されたビジネスマッチング分科会を前身とし、沖縄県内の福祉事業所職員を中心に活動する団体です。障がいのある方の一般就労を目指し、県の経済団体や教育機関とも連携しながら、イベント開催やウェブサイト運営など、幅広い活動を展開しています。

「おしごと発見フェア」は2025年度で4年目を迎え、昨年に続き、沖縄コンベンションセンター展示棟で開催しました。毎年好評の「おしごとチャレンジ体験会」では、障がい者雇用を推進する沖縄県警察が行政機関として初出展し、鑑識業務の体験などを紹介しました。また、スーパーの配送準備や介護技術、さらには前年のフェアを経て就職した方が活躍する特例子会社による農業補助作業など、多種多様な企業の業務を実体験していただきました。合同企業説明会および就職準備相談会のブースは終日満席となり、来場者数は630名を超える盛況を博しました。授業の一環として来場する特別支援学校も年々増加しており、障がいのある方の一般企業への就労を具体的にイメージ出来るイベントとして定着してきました。

### vii) ボランティアプロジェクト

ヤマト運輸労働組合とヤマト福祉財団が連携し、ヤマトグループ社員が地域の障がい者事業所の利用者や職員と繋がり、交流を深めるボランティア活動を推進しています。

「農業編」では、例年春と秋の年2回、それぞれ2ヵ所の事業所で農作業支援を実施しています。本年度は埼玉県熊谷市と長野県小布施町の福祉事業所にて活動を行い、農作業のサポートとともに利用者との親睦を深めました。

「地域福祉活動編」では、同組合青年部の協力のもと「ヤマト繋がるプロジェクト」を展開。NPO法人アクションポート横浜の大学生と共に交流イベントを企画・運営し、学生・企業・福祉が一体となる地域交流の場を創出しました。

## II. その他

## i) 東京2025デフリンピックにおける国際手話通訳および手話言語アナウンサー等の普及に向けた取り組み

東京2025デフリンピックの開催に際し、大会後を見据えた映像分野での障がい者雇用の創出や、国際手話通訳の活動領域拡大を目指し、(一財)全日本ろうあ連盟へ助成を実施しました。

本事業では、大会における手話言語解説者の養成に取り組んだほか、公式ウェブサイトでの国際手話によるワイプ映像を用いた情報発信や、各国選手・関係者向けの国際手話相談窓口を設置しました。これらの取り組みは、聴覚障がい者に向けた放送アクセシビリティの向上や情報バリアフリーの構築に大きく寄与するとともに、大会後の映像分野における障がい者の職域拡大に向けた大きな一歩となりました。

## ■ 賛助会員の状況

当財団の母体であるヤマトホールディングス(株)とそのグループ会社で組織する賛助会員数は65,192人となっています。

(公1) 助成事業

## 2025年度中に実施した助成事業

## I. 障がいのある大学生への奨学金の支給

■ 40名

	大学名	学年	氏名
1	鹿児島大学	6年生	木村 栄喜
2	安田女子大学	6年生	野林 千聖
3	金沢大学	5年生	遠藤 あゆみ
4	長崎国際大学	5年生	立石 有梨佳
5	琉球大学	4年生	上原 直美
6	和光大学	4年生	北田 晴人
7	立命館大学	4年生	五井 比奈子
8	明治大学	4年生	小林 紹子
9	静岡県立大学	4年生	三枝 巧実
10	宮城学院女子大学	4年生	佐藤 かえで
11	三重大学	4年生	世古口 彩花
12	立命館アジア太平洋大学	4年生	田島 和弥
13	金城学院大学	4年生	土屋 彩華
14	京都大学	4年生	福谷 帆香
15	大阪公立大学	4年生	宮口 陽邑
16	早稲田大学	4年生	向原 毅貴
17	東京農業大学	4年生	森 柊也
18	名古屋大学	4年生	吉野 克利
19	北九州市立大学	3年生	伊藤 優希
20	筑波技術大学	3年生	黒木 雅也

	大学名	学年	氏名
21	東京外国語大学	3年生	坂本 彩華
22	早稲田大学	3年生	高嶋 雄大
23	慶應義塾大学	3年生	永井 慶吾
24	広島国際大学	3年生	西垣内 穂乃香
25	東京情報大学	3年生	原 昂大
26	東京電機大学	2年生	石垣 敦也
27	九州大学	2年生	石田 華蓮
28	筑波技術大学	2年生	鈴木 大惺
29	上智大学	2年生	玉置 陽葵
30	琉球大学	2年生	花城 さくら
31	神奈川大学	2年生	松永 健由
32	鳥取大学	2年生	松本 響
33	東京学芸大学	1年生	井内 綾乃
34	産業医科大学	1年生	古西 玄武
35	筑波技術大学	1年生	坂上 美帆
36	大阪工業大学	1年生	佐々木 一真
37	慶應義塾大学	1年生	佐野 夢果
38	信州大学	1年生	中村 春樹
39	関西国際大学	1年生	野口 真優
40	同志社大学	1年生	政岩 琉汰

## Ⅱ. 2025年度ヤマト福祉財団助成金

( 障がい者給料増額支援助成金・障がい者福祉助成金 助成件数及び金額合計:62件／1億3,175万円 )

### 1. 障がい者給料増額支援助成金 実施一覧(34件／1億1,146万円)

単位(万円)

	所在地	福祉事業所・団体名	助成対象	実施金額
1	北海道石狩郡当別町	Farm Agricola	ハンドフォークリフトとジョブサンの購入資金	500
2	京都府久世郡久御山町	フォーライフshiki	カフェ運営に係る設備・機器及び設置に要する費用資金	500
3	愛媛県松山市	就労継続支援多機能事業所 あんずの森	レトルト殺菌器及び真空包装機器等購入資金	500
4	山形県東置賜郡川西町	就労継続支援B型事業所 Leap	薪作業用ワイヤーコンテナ購入資金	440
5	北海道空知郡南富良野町	障がい福祉サービス事業所 なんぷ〜香房	ペーカリー機器の購入資金	249
6	北海道川上郡標茶町	みなやんワークス	菓子製造工場新設に伴う機器の購入とそれに伴う設置資金	338
7	福島県郡山市	共働作業所 にんじん舎	プラソイラー、畝立て同時播種機、にんじん洗浄機、灌水用ポンプの購入資金	116
8	茨城県ひたちなか市	多機能型障害福祉サービス事業所 ハートケアセンター ひたちなか	電化焼き機の購入資金	99
9	千葉県千葉市緑区	オリーブ鎌取福祉作業所	刈り取った草、剪定した枝葉を処分場に 効率よく運搬するための2tトラックの購入資金	494
10	東京都世田谷区	社会就労センター パイ焼き窯	菓子製造部門の設備整備のための資金	130
11	静岡県沼津市	就労継続支援(B型)事業所 クローバー	箱折機(ケースフォーマー)・梱包機(自動梱包機)購入資金	100
12	三重県鈴鹿市	アクティブ鈴鹿	ワイヤーハーネス生産設備購入資金	250
13	滋賀県栗東市	おもや	新規農業施設の建設資金	500
14	滋賀県栗東市	自立就労センター パレット・ミル	発泡スチロール減容機の購入と、資材保管用テントの 設置資金	500
15	滋賀県蒲生郡竜王町	創作ヴィレッジ こるり村	パティスリー設置のための改装費及び設備導入資金	500
16	滋賀県大津市	ShakeHands・浜大津	アニメーション制作3DCG対応高性能パソコンの購入資金	250
17	京都府八幡市	Joint Joy	食品製造に必要な機器購入資金	294
18	京都府京都市下京区	ル・コロラボ	商品製造オペレーション向上のための設備資金	370
19	兵庫県丹波市	きらめきワーク	菓子製造販売に使用する厨房機器等購入資金	300
20	奈良県天理市	大樹	タンブラー乾燥機導入資金	315
21	和歌山県田辺市	はまゆう作業所	オリジナルカフェ開店のための厨房備品購入資金	350
22	広島県福山市	JOBプラスはんど	コロック・メンチカツ用の食品成型機1台の購入資金	250
23	広島県東広島市	ワークサポートひなた	インクジェットプリンターの購入資金	500
24	山口県宇部市	緑豊舎	乗用モーターの購入資金	280
25	愛媛県松山市	就労継続支援A型事業所Akari	新店舗の設備購入資金	500
26	福岡県太宰府市	とびうめワークセンター	乾燥機と圧着機の購入	355
27	福岡県糟屋郡須恵町	YUZUKA	スチームラックオープン購入資金	500
28	福岡県 北九州市小倉北区	ほうぼく第2作業所	堆肥作りと圃場づくりのための機械導入、病害虫に強い 作物を育てるためのビニールハウス導入資金	110
29	長崎県南島原市	ノーブル	食品加工事業の機器購入資金	160
30	長崎県雲仙市	地域就労事業所野の花風館	農産物加工に必要な専用機器の購入資金	250
31	大分県佐伯市	ネクストライフ	生産者農家等を廻り杉苗を回収、選別管理する利用者と 杉苗を管理所まで乗せて運ぶための車両の購入資金	300
32	宮崎県児湯郡新富町	障害者支援施設あゆみの里	水耕栽培装置2機及びビニールハウス1棟設置資金	250
33	鹿児島県始良市	サンテリア愛ら	ユニフォームクリーニング用水洗機購入資金	276
34	鹿児島県鹿屋市	自立支援センター太陽の丘	農機具導入の資金	320

助成先

1

Farm Agricola（北海道石狩郡当別町） | 就労継続支援A型 |

助成対象事業の内容および助成額



■ハンドフォークリフトとジョブサンの購入資金  
■助成金：5,000,000円

### 設備の充実で1万羽規模への拡大と売上・賃金向上を実現

約3.5haの耕作放棄地を譲り受け、2016年から当別町で平飼い、放し飼いの養鶏場を運営しているFarm Agricola。最初はビニールハウス鶏舎で200羽からスタートしました。2019年には飼料の80%以上が有機飼料であることや放牧環境など厳しい審査にクリアした卵のオーガニック認証を取得。2022年に当財団の助成で、攪拌機や粉碎機、スクリーコンベアを導入し飼料製造の機械化を図りました。現在は、平飼いシステムを導入した木造鶏舎、ビニールハウス鶏舎6棟で、1万羽弱を飼養しています(2025年)。

さらに生産量上げるために、2025年度助成金で、新たに導入したのがハンドフォークリフトとジョブサン(トラクターショベル)です。現在はバケツで運んでいる飼料原料なども、ハンドフォークリフトなら免許不要で一気に運ぶことができ、現在の約2倍の製造を見込み、出荷作業へのマンパワー不足も解消できます。ジョブサンは小回りの利く小型トラクターショベルで、除雪や鶏糞の処理などに活用。特に鶏糞は粉殻を混ぜて攪拌・発酵させ小まめに攪拌することで、堆肥としての商品になります。2026年には売上1億円、平均給料約11万円を目指します。

助成先

2

フォーライフshiki（京都府久世郡久御山町） | 就労継続支援A型 |

助成対象事業の内容および助成額



■カフェ運営に係る設備・機器および設置に要する費用資金  
■助成金：5,000,000円

### 重度の方が遠隔操作ロボットでカフェの接客を

企業での就労が困難な重い障がいのある方のセーフティネットとして、事業開始以来一貫して雇用契約に基づく就労支援に取り組んでいます。主な仕事は紙器加工をはじめ包装・シール貼り等の軽作業ですが、年々最低賃金が引き上げられる一方で、受託事業による加工費は据え置かれ、実質的には減収となっています。

収益性の高い安定的・継続的な自主事業の確立を模索し、2019年度に珈琲事業会社の協力を得て、珈琲焙煎加工事業を開始。コロナ禍で計画通りに進みませんでした。宇治市内の2カ所でカフェを運営しています。また2025年度秋に開設される「久御山まちづくりセンター」内でのカフェ運営の予定しており、すでに宇治市のカフェでも導入している、遠隔操作ロボットを活用した接客や近隣事業所へのランチメニューのデリバリーサービス等、重い障がいのある人や引きこもり状況にある方達の雇用機会を提供します。助成金でカフェの調理器具や冷蔵庫等、基本的な機器の購入、設置などを整備し、利用者さんの給料増額に取り組みます。

助成先

3

### 労継続支援多機能事業所 あんずの森

(愛媛県松山市) | 就労継続支援B型 |

助成対象事業の内容および助成額



■レトルト殺菌機および真空包装機械等購入資金  
■助成金：5,000,000円

#### ペットフードのレトルト商品を提案して給料増額へ

あんずの森のB型事業所では、施設内作業として主にペットフードのリパック作業を行っています。受注数量の増量が見込めない状況です。そこで、ペットフード業界の繋がりを活かし、レトルトフードの製造依頼があるのに依頼を断っている現状や、レトルト商品に取り組みたいと考えるメーカーが存在することをチャンスと捉え、市場ニーズのあるレトルト事業への新規参入を計画しています。

高額なレトルト殺菌機・真空包装機械等を導入することでまずはOEMで製造技術を身につけ、ペットフードや、メディカルハーブの専門知識を活かし、提案やODMを行い給料増額に大きく舵を切りたい。県内には、規格外の農作物をはじめ、魚の未利用部位や未利用魚、鳥獣被害の駆除からでるジビエ肉など廃棄されている材料が多くあり、それを活用することで地域貢献にもなります。

素材を提供できること、企画・提案によるODMで、利益確保も可能となり給料増額にむけて、5万円をめざす一歩となります。

助成先

4

### 就労継続支援B型事業所 Leap (山形県東置賜郡川西町) | 就労継続支援B型 |

助成対象事業の内容および助成額



■新作業用ワイヤーコンテナ購入資金 ■助成金：4,400,000円

#### ワイヤーコンテナ導入で、売上増と給料増額を

Leapのメインの作業は薪ストーブ専門店の関連会社から受託する薪づくり、焚きつけづくりです。現在、薪づくりの工程で人手と時間がかかり、また薪を積み上げる作業では技術が必要なため、できる人が限られ生産量が増やせない状況です。加えて当事業所だけで生産が追いつかないため、他の就労支援事業所にも協力していただいている現状です。

薪の販売は需要に供給が追いついていないため、受注を断ることもあります。生産量さえ増やすことができれば売上増、給料増額が見込めます。助成金で、「ワイヤーコンテナ」を導入することで、薪積みの技術的なハードルを下げるのと同時に、薪割り後の乾燥場所へ移動するための軽トラックへの積み込みや、販売時のトラック積み込み作業を削減できます。具体的には、延べ8人で2時間半かかっていた作業が、ワイヤーコンテナ導入後では延べ4人で作業が1時間20分で完了する予定です。これにより、薪割り作業に人員を割り当て、生産量を増やす事ができるようになります。また、作業を委託している就労支援事業所さんの売上増も見込めます。

助成先

5

障がい福祉サービス事業所 なんぷ〜香房（北海道空知郡南富良野町）

助成対象事業の内容および助成額



■ベーカリー機器の購入資金  
■助成金：2,490,000円

助成先

6

みなやんワークス（北海道川上郡標茶町）

助成対象事業の内容および助成額



■菓子製造工場新設に伴う機器の購入と  
それに伴う設置資金  
■助成金：3,380,000円

助成先

7

共働作業所 にんじん舎（福島県郡山市）

助成対象事業の内容および助成額



■プラソイラー、畝立て同時播種機、にんじん洗浄機、灌用水用ポンプの購入資金 ■助成金：1,160,000円

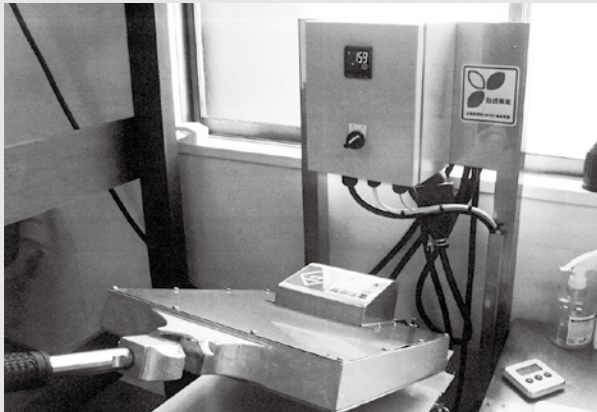
助成先

8

多機能型障害福祉サービス事業所  
ハートケアセンターひたちなか

(茨城県ひたちなか市)

助成対象事業の内容および助成額



■電化焼き機の購入資金 ■助成金：990,000円

助成先

9

オリーブ鎌取福祉作業所 (千葉県千葉市緑区)

助成対象事業の内容および助成額



■刈り取った草、剪定した枝葉を処分場に効率よく  
運搬するための2tトラックの購入資金  
■助成金：4,940,000円

助成先

10

社会就労センター パイ焼き窯 (東京都世田谷区)

助成対象事業の内容および助成額



■菓子製造部門の設備整備のための資金 ■助成金：1,300,000円

助成先

11

就労継続支援(B型)事業所 クローバー (静岡県沼津市)

助成対象事業の内容および助成額



■箱折機(ケースフォーマー)・  
梱包機(自動梱包機)購入資金  
■助成金:1,000,000円

助成先

12

アクティブ鈴鹿(三重県鈴鹿市)

助成対象事業の内容および助成額



■ワイヤーハーネス生産設備購入資金 ■助成金:2,500,000円

助成先

13

おもや(滋賀県栗東市)

助成対象事業の内容および助成額



■新規農業施設の建設資金 ■助成金:5,000,000円

助成先

14

自立就労センター パレット・ミル (滋賀県栗東市)

助成対象事業の内容および助成額



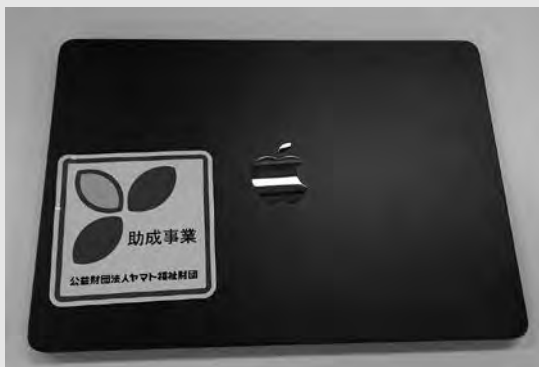
■発泡スチロール減容機の購入と、資材保管用テントの設置資金 ■助成金: 5,000,000円

助成先

16

ShakeHands・浜大津 (滋賀県大津市)

助成対象事業の内容および助成額



■アニメーション制作3DCG対応高機能パソコンの購入資金 ■助成金: 2,500,000円

助成先

17

Joint Joy (京都府八幡市)

助成対象事業の内容および助成額



■食品製造に必要な機器購入資金  
■助成金:2,940,000円

助成先

18

ル・クロラボ (京都府京都市下京区)

助成対象事業の内容および助成額



■商品製造オペレーション向上の  
為の設備資金  
■助成金:3,700,000円

助成先

19

きらめきワーク (兵庫県丹波市)

助成対象事業の内容および助成額



■菓子製造販売に使用する厨房機器等購入資金 ■助成金:3,000,000円

助成先

**20** 大樹 (奈良県天理市)

助成対象事業の内容および助成額



■タンブラー乾燥機導入資金  
■助成金: 3,150,000円

助成先

**21** はまゆう作業所 (和歌山県田辺市)

助成対象事業の内容および助成額

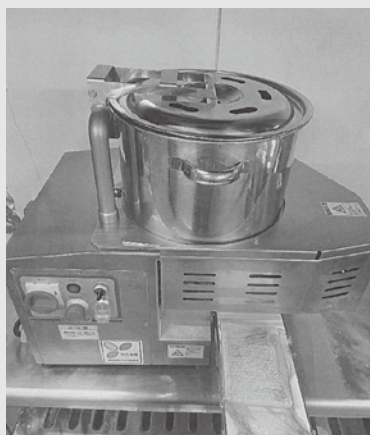


■オリジナルカフェ開店の為の厨房備品購入資金 ■助成金: 3,500,000円

助成先

**22** JOBプラスはんど (広島県福山市)

助成対象事業の内容および助成額



■コロケ・メンチカツ用の  
食品成型機1台の購入資金  
■助成金: 2,500,000円

助成先

23

ワークサポート ひなた (広島県東広島市)

助成対象事業の内容および助成額



■インクジェットプリンターの購入資金  
■助成金: 5,000,000円

助成先

24

緑豊舎 (山口県宇部市)

助成対象事業の内容および助成額



■乗用モーターの購入資金  
■助成金: 2,800,000円

助成先

25

就労継続支援A型事業所 Akari (愛媛県松山市)

助成対象事業の内容および助成額



■新店舗の設備購入資金  
■助成金: 5,000,000円

助成先

26

とびうめワークセンター（福岡県太宰府市）

助成対象事業の内容および助成額



■乾燥機と圧着機の購入 ■助成金：3,550,000円

助成先

27

YUZUKA（福岡県糟屋郡須恵町）

助成対象事業の内容および助成額



■スチームラックオープン購入資金 ■助成金：5,000,000円

助成先

28

ほうぼく第2作業所（福岡県北九州市小倉北区）

助成対象事業の内容および助成額



■堆肥作りと圃場づくりのための機械導入、  
病害虫に強い作物を育てるためのビニールハウス導入資金  
■助成金：1,100,000円

助成先

29

ノーブル（長崎県南島原市）

助成対象事業の内容および助成額



■食品加工事業の機器購入資金 ■助成金：1,600,000円

助成先

30

地域就労事業所 野の花風館（長崎県雲仙市）

助成対象事業の内容および助成額



■農産物加工に必要な専用機器の購入資金 ■助成金:2,500,000円

助成先

31

ネクストライフ（大分県佐伯市）

助成対象事業の内容および助成額



■生産者農家等を廻り杉苗を回収、  
選別管理する利用者と杉苗を管理所まで乗せて  
運ぶための車両の購入資金  
■助成金：3,000,000円

助成先

32

障害者支援施設 あゆみの里（宮崎県児湯郡新富町）

助成対象事業の内容および助成額



■水耕栽培装置2機及びビニールハウス1棟設置資金  
■助成金：2,500,000円

助成先

33

サンテリア愛ら（鹿児島県始良市）

助成対象事業の内容および助成額



■ユニフォームクリーニング用  
水洗機購入資金  
■助成金：2,760,000円

助成先

34

自立支援センター 太陽の丘（鹿児島県鹿屋市）

助成対象事業の内容および助成額



■農機具導入の資金 ■助成金：3,200,000円

## 2. 障がい者福祉助成金 実施一覧(28件/2,029万円)

単位(万円)

	所在地	福祉事業所・団体名	助成対象	申請区分	実施金額
1	北海道札幌市豊平区	NPO法人 福祉のしゃべりば	「誰もが主役になっていいじゃん」ユニバーサル運動会事業	スポーツ活動	40
2	宮城県 仙台市宮城野区	一般社団法人 MOTTO	MOTTOパラ陸上クラブ	スポーツ活動	100
3	宮城県仙台市泉区	NPO法人 UBUNTU	重度障害児・者のためのジョブラボ事業	文化活動	86
4	群馬県前橋市	社会福祉法人 ゆずりは会	「農福連携フォーラムinぐんま～農福連携の可能性と未来～」(仮)	講演会	60
5	神奈川県 川崎市宮前区	一般社団法人 ピッカ	みんな輝け!ピッカピカ祭り (生演奏と舞踏&マジックによる文化芸術公演)	文化活動	100
6	東京都千代田区	特定非営利活動法人ウィーログ	大阪2025デジタル版バリアフリーマップ制作・発行事業	出版	100
7	東京都千代田区	一般社団法人東京TSネット	コミュニティ・トラブルシューターの養成 およびネットワークの構築	ボランティア 活動	100
8	東京都新宿区	社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合	リーフレット「視覚障害者にとって差別ってどんなこと?」 改正版発行プロジェクト	出版	85
9	東京都新宿区	一財インターナショナル・ブラインド フットボール・ファウンデーション	視覚障がい者ビジネス実践知ワークショップ	会議	35
10	東京都文京区	全国盲ろう教育研究会	視覚と聴覚の両方に障害を有する盲ろう児の相談会 および支援会議	会議・講演会	100
11	東京都文京区	特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟	知的障がい者フットサル地域連携プロジェクト	文化活動	70
12	東京都港区	全国医療的ケアライン	医療的ケア児者の自立に向けた生活実態調査	調査	100
13	東京都中央区	一般社団法人 Arts and CreativeMind	Strike Gold Art for "No Concept" ー 作為なき表現者たち	文化活動	100
14	東京都中央区	特定非営利活動法人 AYA	講演会「インクルーシブな社会をAYAとともに目指そう ー AYA代表で医師の中川がつなぐ架け橋 ー」	講演会	100
15	東京都国分寺市	国分寺市移動支援連絡会	移動支援週末グループ活動	文化活動	20
16	東京都小金井市	共生アート&協働アートin小金井	Fugue ～障がい者アートとJAZZのポリフォニー～	文化活動	50
17	愛知県半田市	農園バンドグリーンエンジェルズ	目が見える、見えないに関係なく、 音楽という共通言語で集える地域の音楽祭開催	文化活動	93
18	愛知県名古屋市中区	特定非営利活動法人 ドリーム	地域の脳卒中障害者同士のコミュニティ形成をつくる ピアサポート事業	ボランティア 活動	29
19	愛知県愛知郡東郷町	特定非営利活動法人 ノーマCafé	視覚障がい者交流&自立のための「ブラインドCafé」	ボランティア 活動	60
20	三重県いなべ市	桐林館喫茶室【筆談カフェ】	「桐林館喫茶室～筆談カフェとアール・ブリュット～」(仮) 書籍化プロジェクト	出版	100
21	大阪府東大阪市	パンジームディア	知的障害のある人の「私の歴史」のLLブックの出版	出版	100
22	大阪府 大阪市東淀川区	一般社団法人 手話エンターテイメント発信団oioi	手話ワークショップ ～ENJOY&STUDY～	会議	51
23	奈良県橿原市	ボランティア団体 スノーキャンパス	こどもたちの未来創造プロジェクト学びを助ける 支援ツール体験展示会	講演会	23
24	広島県広島市中区	特定非営利活動法人 心の絆ネットワーク	「だってしょうがないじゃない」上映と後見を考える ミニフォーラム・後見入門講座開催事業	講演会	50
25	愛媛県宇和島市	点訳グループ つわぶき	点訳者養成のための講習会への参加費用と パソコン修理費用	ボランティア 活動	16
26	高知県室戸市	特定非営利活動法人 夢創房室戸迎鯨の杜	スポーツでつなぐ「友情」、「協力」、「喜び」の 学び舎プロジェクト	スポーツ活動	91
27	福岡県糟屋郡須恵町	ライフサポート SAKU	障がい者が地域の中で「役割と関わり」を拡げて いくための「障がい者地域デビュー」PDCA型調査	調査	70
28	沖縄県石垣市	オンラインST研究会	オンラインSTを普及するためのプロジェクト活動	研究	100

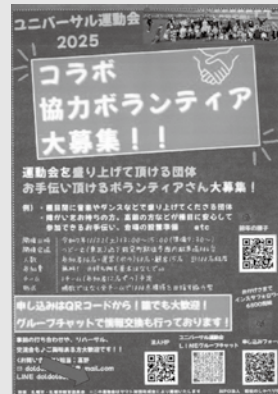
助成先

助成対象事業の内容および助成額

スポーツ活動

1

NPO法人  
福祉のしゃべりば  
北海道札幌市豊平区



■「誰もが主役になって  
いいじゃん」  
ユニバーサル運動会  
事業  
■助成金：400,000円

スポーツ活動

2

一般社団法人  
MOTTO  
宮城県仙台市宮城野区



■MOTTOパラ陸上クラブ  
■助成金：1,000,000円

文化活動

3

NPO法人  
UBUNTU  
宮城県仙台市泉区



■重度障害児・者のためのジョブラボ事業  
■助成金：860,000円

講演会

4

社会福祉法人  
ゆずりは会  
群馬県前橋市



■「農福連携フォーラムinぐんま  
～農福連携の可能性と未来～」(仮)  
■助成金：600,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

文化活動

5

一般社団法人 ピッカ  
神奈川県川崎市宮前区



■みんな輝け!ピッカピカ祭り  
〈生演奏と舞踏&マジックによる文化芸術公演〉  
■助成金:1,000,000円

出版

6

特定非営利活動法人  
ウィーログ  
東京都千代田区



■大阪2025デジタル版バリアフリーマップ制作・発行事業  
■助成金:1,000,000円

ボランティア活動

7

一般社団法人  
東京TSネット  
東京都千代田区



■コミュニティ・トラブルシューターの養成およびネットワークの構築  
■助成金:1,000,000円

出版

8

社会福祉法人  
日本視覚障害者団体連合  
東京都新宿区



■リーフレット「視覚障害者にとって差別ってどんなこと?」改正版発行プロジェクト  
■助成金:850,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

会議

9

一財インターナショナル・  
ブラインドフットボール・  
ファウンデーション

東京都新宿区



■視覚障がい者ビジネス実践知ワークショップ

■助成金：350,000円

会議・講演会

10

全国盲ろう教育研究会

東京都文京区



■視覚と聴覚の両方に障害を有する盲ろう児の相談会および支援会議

■助成金：1,000,000円

文化活動

11

特定非営利活動法人  
日本知的障がい者  
サッカー連盟

東京都文京区



■知的障がい者フットサル地域連携プロジェクト

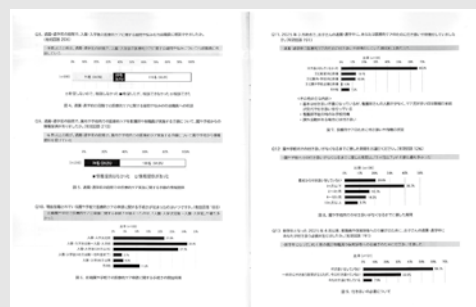
■助成金：700,000円

調査

12

全国医療的ケアライン

東京都港区



■医療的ケア児者の自立に向けた生活実態調査

■助成金：1,000,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

文化活動

13

一般社団法人  
Arts and Creative Mind  
.....  
東京都中央区

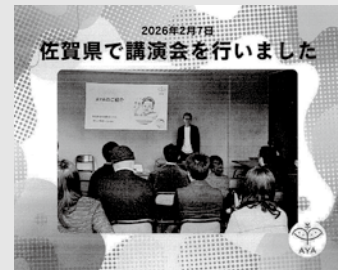


■Strike Gold Art for “No Concept” — 作為なき表現者たち  
■助成金：1,000,000円

講演会

14

特定非営利活動法人  
AYA  
.....  
東京都中央区



■講演会「インクルーシブな社会をAYAとともに目指そう  
—AYA代表で医師の中川がつなぐ架け橋—」  
■助成金：1,000,000円

文化活動

15

国分寺市  
移動支援連絡会  
.....  
東京都国分寺市



■移動支援週末グループ活動 ■助成金:200,000円

文化活動

16

共生アート&  
協働アート in 小金井  
.....  
東京都小金井市



■Fugue～障がい者アートとJAZZのポリフォニー～  
■助成金：500,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

文化活動

17

農園バンド  
グリーンエンジェルズ

愛知県半田市



■目が見える、見えないに関係なく、音楽という共通言語で集える地域の音楽祭開催  
■助成金：930,000円

ボランティア活動

18

特定非営利活動法人  
ドリーム

愛知県名古屋市中区



■地域の脳卒中障害者同士のコミュニティ形成をつくるピアサポート事業  
■助成金：290,000円

ボランティア活動

19

特定非営利活動法人  
ノーマCafé

愛知県愛知郡東郷町



■視覚障がい者交流&自立のための「ブラインドCafé」  
■助成金：600,000円

出版

20

桐林館喫茶室  
【筆談カフェ】

三重県いなべ市



■「桐林館喫茶室～筆談カフェとオール・ブリュット～」(仮)書籍化プロジェクト  
■助成金：1,000,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

出版

21

パンジーメディア  
大阪府東大阪市



■知的障害のある人の「私の歴史」のLLブックの出版  
■助成金：1,000,000円

会議

22

一般社団法人  
手話エンターテイメント  
発信団oioi  
大阪府大阪市東淀川区



■手話ワークショップ  
～ENJOY&STUDY～  
■助成金：510,000円

講演会

23

ボランティア団体  
スノーキャンパス  
奈良県橿原市

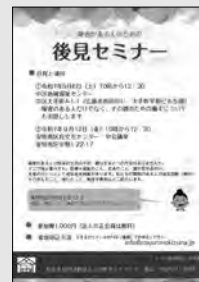


■こどもたちの未来創造プロジェクト学びを助ける支援ツール体験展示会  
■助成金：230,000円

講演会

24

特定非営利活動法人  
心の絆ネットワーク  
広島県広島市中区



■「だってしょうがないじゃない」上映と後見を考えるミニフォーラム  
・後見入門講座開催事業  
■助成金：500,000円

助成先

助成対象事業の内容および助成額

ボランティア活動

25

点訳グループ  
つわぶき

愛媛県宇和島市



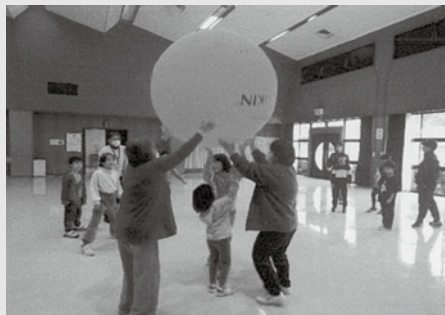
■点訳者養成のための講習会への参加費用とパソコン修理費用  
■助成金：160,000円

スポーツ活動

26

特定非営利活動法人  
夢創房室戸迎鯨の杜

高知県室戸市



■スポーツでつなぐ「友情」、「協力」、「喜び」の学び舎プロジェクト  
■助成金：910,000円

調査

27

ライフサポート SAKU

福岡県糟屋郡須恵町



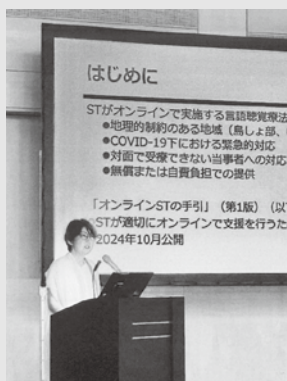
■障がい者が地域の中で「役割と関わり」を拓げていくための「障がい者地域デビュー」PDCA型調査業  
■助成金：700,000円

研究

28

オンラインST研究会

沖縄県石垣市



■オンラインSTを普及するためのプロジェクト活動  
■助成金：1,000,000円

(公2) 研修・育成事業

# 2025年度 障がい者の働く場 パワーアップフォーラム実施報告

## I | 実施報告

2025年度の障がい者の働く場パワーアップフォーラムは、東京会場と名古屋会場の2カ所でリアル開催を実施しました。全体テーマは「人は自立して生活することで幸せを感じられる」。会場のサブテーマとして東京会場は「働く力を掘り起こす」、名古屋会場は「障がいのある人が自立するために働く場に求めていること」を掲げました。

障がいのある方々が自らを高めながら就労を通じて社会参加を実現する取り組みや、当事者のニーズに応えられる事業所のあり方について、有識者・小倉昌男賞受賞者の講演、実践報告、シンポジウムを展開し、会場のみなさんとともに考えました。

## II | プログラム内容

### 働く力を掘り起こす

東京会場 日時：2025年7月4日(金) / 会場：灘尾ホール(千代田区霞ヶ関)

10:00	開 会	主催者あいさつ / ヤマト福祉財団 理事長 山内雅喜
10:05	本日のプログラムのご案内	
10:10	基調講演	障害のある人の今・働くことの意味を考える NPO法人日本障害者協議会 代表 藤井克徳氏
11:00	小倉昌男賞 受賞者講演	企業との共存から共生へ！ ～お互いがお互いを支え合う関係へ～ 株式会社カムラック 代表取締役 賀村 研氏
11:45	休憩(60分)	
12:45	小倉昌男賞 受賞者講演	暮らしの幅を広げるチャレンジ 社会福祉法人慶光会 理事長 柴田智宏氏
13:30	実践報告	働く力を伸ばし、支える支援 社会福祉法人武蔵野千川福祉会 チャレンジャー 所長 佐藤資子氏
14:10	休 憩	
14:20	当事者発表	
14:40	シンポジウム	シンポジスト : 賀村 研氏、柴田智宏氏、佐藤資子氏 コーディネータ: 藤井克徳氏
16:15	閉 会	閉会あいさつ / ヤマト福祉財団 理事長 山内雅喜
16:20	名刺交換会	登壇者と直接対話をお楽しみください
17:00	終 了	



## 障がいのある人が自立するために働く場に求めていること

名古屋会場 日時：2025年9月12日(金) / 会場：デザインホール(名古屋市中区)

10:00	開会	主催者あいさつ / ヤマト福祉財団 理事長 山内雅喜
10:05	本日のプログラムのご案内	
10:10	基調講演	障害のある人の今・働くことの意味を考える NPO法人日本障害者協議会 代表 藤井克徳氏
11:00	小倉昌男賞 受賞者講演	利用者が主人公 ~福祉は人なり~ 社会福祉法人いなりのやま福祉会 常務理事 酒井勇幸氏
11:45	休憩(60分)	
12:45	小倉昌男賞 受賞者講演	刑事から福祉へ ~27年追い求めた真の共生社会とは~ NPO法人ENDEAVOR EVOLUTION 理事長 松浦一樹氏
13:30	実践報告	支援の充実と、効率化を求めて 社会福祉法人ゆたか福祉会 リサイクルみなみ作業所 副所長 稲垣伸治氏
14:10	休憩	
14:20	当事者発表	
14:40	シンポジウム	シンポジスト : 酒井勇幸氏、松浦一樹氏、稲垣伸治氏 コーディネータ: 藤井克徳氏
16:15	閉会	閉会あいさつ / ヤマト福祉財団 理事長 山内雅喜
16:20	名刺交換会	登壇者と直接対話をお楽しみください
17:00	終了	

## 東京会場 | サブテーマ『働く力を掘り起こす』

- 日 時：2025年7月4日
- 会 場：灘尾ホール（千代田区霞が関）

山内理事長は「慢性的な人手不足に悩む福祉施設・事業所は、昨今の諸物価高騰で厳しい状況に追い込まれています。この苦境を跳ね退けるヒントを、本日の講演から一つでも持ち帰ってください」と主催者挨拶をしました。

時流講座では(NPO)日本障害者協議会の代表 藤井克徳さんが障がいのある方を取り巻く問題点を解説。「2024年の企業で働く障がいのある方の実人員は67万7,461人と、福祉的就労と合わせても障がいのある方全体の労働人口の約35%に留まっています。障がいのある方一人ひとりの声に耳を傾け各人の能力を伸ばし、職業選択の幅を広げることが急務です」と解説しました。

小倉昌男賞受賞者講演は、(株)カムラック代表取締役の賀村 研さんが「企業との共存から共生へ！～お互いがお互いを支え合う関係へ」をテーマに講演。賀村さんは、IT業界の人材として障がいのある方が活躍でき、一般就労にも結びつく、そんな支援の仕組みを作り上げています。「我々の活動そのものが社会課題を解決し、持続可能な社会を実現できると考えています。そんな活動をぜひ一緒に進めていきましょう」と呼びかけました。

(社福)慶光会の理事長 柴田智宏さんのテーマは「暮らしの幅を広げるチャレンジ」です。柴田さんは、ペットフードビジネスの会社を起業し、障がいのある方だけでなく職を求める女性や高齢者を雇用。さらに近隣の福祉事業所に仕事の依頼なども行っています。「20年前、私は月6,000円しか利用者さんに工賃を払っていなかった。でもできない言い訳ではなく、もしも私がその立場だったらと考え、目の前の壁に向き合い立ち向かうことで変わることができたのです」と参加者を激励しました。

実践報告は、(社福)武蔵野千川福祉会 チャレンジャー所長の佐藤資子さん。「働く力を伸ばし、支える支援」と題し、「利用者さんが、集団の中で個々の力が発揮できるようになってもらうためにも、利用者さんと職員の丁寧な関係を築くことが大切です」と伝えています。

当事者の声は2名です。「DMの封入封緘作業に従事して12年目です。いま挑戦しているのは、結束機の操作、どの場所でも誰とでも働けるように頑張っています」と(社福)武蔵野千川福祉会チャレンジャーの田中萌絵さん。(株)カムラックの安武一道さんは「チームで働くことで互いの得手不得手をカバーし合っています。今後は自分のスキルを活かし、情報を知らず働けない人の役に立ちたい」と発表しました。



山内理事長



賀村 研氏



柴田智宏氏



佐藤資子氏



当事者の田中萌絵さん(中)と安武一道さん(右)

# 名古屋会場 | サブテーマ 『障がいのある人が自立するために働く場に求めていること』

● 日 時：2025年9月12日

● 会 場：デザインホール（名古屋市中区）

「久しぶりの名古屋での開催となりました。本日は、みなさまと一緒に福祉施設を取り巻く状況などを学び、これから障がいのある方が幸せに暮らせる社会づくりに、少しでもヤマト福祉財団も貢献していきたいと思っております」と山内理事長が主催者挨拶をしました。

時流講座では(NPO)日本障害者協議会の代表 藤井克徳さんが、旧優生保護法や能登半島地震、精神科医療などに加え、障がいのある方を取り巻く就労問題を解説。「参加者の来るときの気持ちと、帰るときの気持ちが変わることが良いフォーラムです。本日はみなさんにたくさん変わってほしいと願っています」と伝えました。

小倉昌男賞受賞者講演では二人が登壇。一人目は(社福)いなりやま福祉会の常務理事 酒井勇幸さんです。テーマは「利用者さんが主人公～福祉は人なり」。酒井さんには視力障がいがあり、利用者さんにより近い立場で支援するためにながが必要かを長年模索し、長野県千曲市で実績を築いてきました。「利用者さんのなかには65歳を越える方もいます。そんな高齢の方が安心して生活できる場を作ることが、いまの課題です」と話しています。

続いて(NPO)ENDEAVOR EVOLUTION理事長の松浦一樹さんが「刑事から福祉へ～27年追い求めた真の共生社会とは」と題して講演。元少年課の刑事の松浦さんは、罪を犯した少年を迎え入れるため、家族ぐるみでグループホームを開設。さらに就労先や仕事が自分に合わなくても何度でもやり直せる仕組みを作り上げています。「福祉がもっと良くなれば、社会はより良くなるはずです。ぜひ今日は皆さんも一緒にたくさんのことを学び、積極的に取り入れてください」と呼びかけました。

実践報告は、(社福)ゆたか福祉会 リサイクルみなみ作業所の副所長 稲垣伸治さんが「支援の充実と、効率化を求めて」のテーマで報告。「利用者の働く力を引き出し、職員がいなくても利用者で回せる、本当に利用者主体の職場になるように努めています」と伝えました。

当事者の声では「私は利用者の自治会長も務めていますので、少しでもみんなの力になりたい。健康第一でリサイクル作業の仕事を少しでも長く続けていきます」と(社福)ゆたか福祉会の近藤敏さん。(社福)いなりやま福祉会の諏訪慎次さんは「これまで一番感動したのは、自分たちで募金を集め事業所を建てた時です。あの日の喜びは忘れません」と話しています。



藤井克徳氏



酒井勇幸氏



松浦一樹氏



稲垣伸治氏



当事者の近藤敏さん



諏訪慎次さん

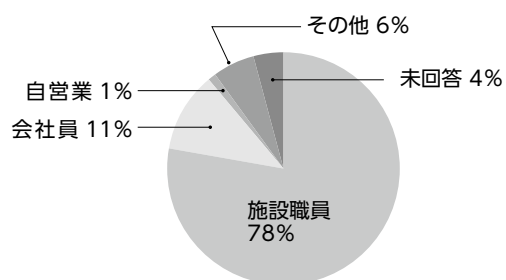
### Ⅲ | 実施日・場所・人数

開催日	開催地	会場	参加人数
7月 4日	東京	全国社会福祉協議会灘尾ホール	108名
9月 12日	名古屋	名古屋産業振興公社デザインホール	113名
			221名

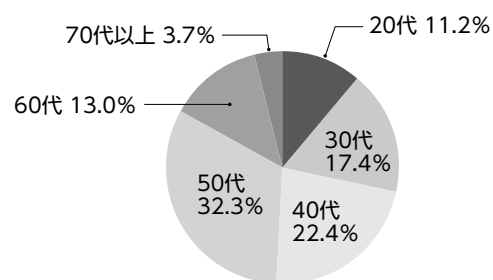
### Ⅳ | 2025年度 障がい者の働く場パワーアップフォーラム 参加者の傾向

※アンケート回答者 161名

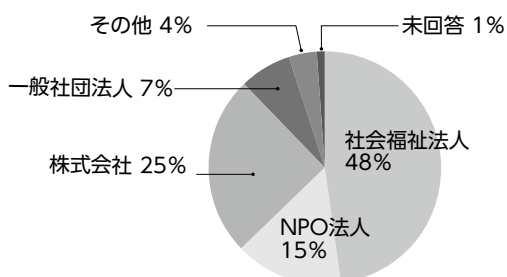
#### 職業



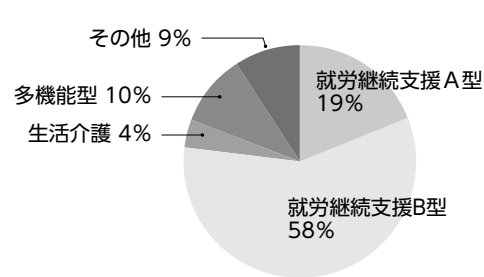
#### 年齢



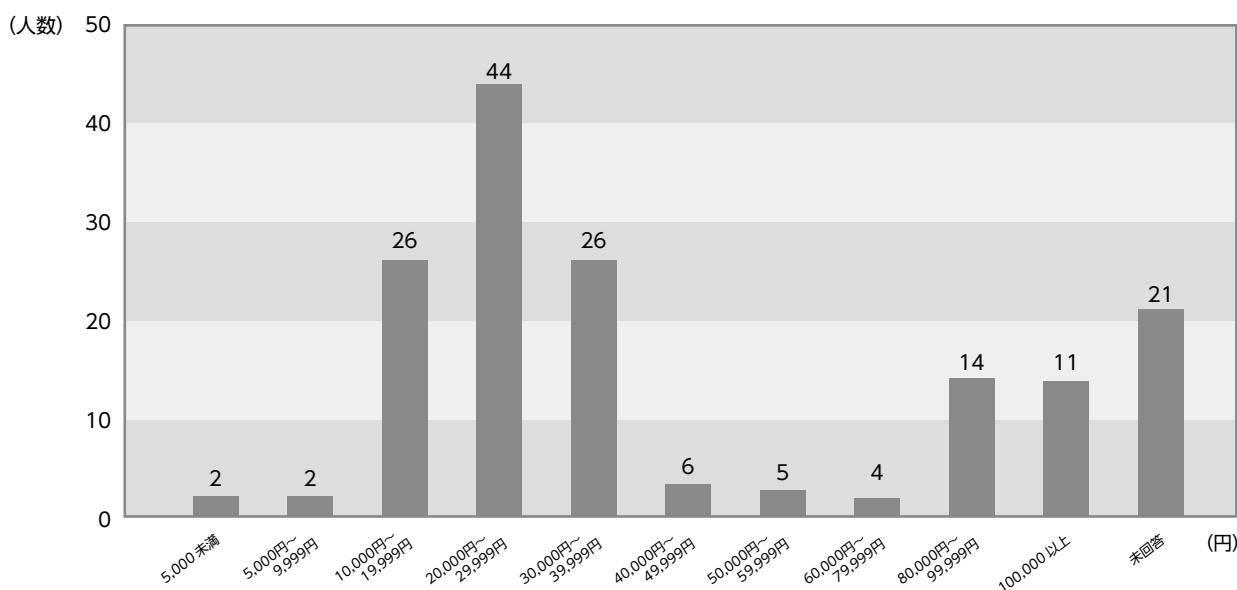
#### 所属



#### 事業区分



#### 参加施設の平均給料の分布



# 2025年度 実践塾 実施報告

## 実践塾とは

小倉昌男賞受賞者や、有識者を講師とし、全国の施設運営者・職員を対象に、利用者さんの給料増額を目的に、事業の見直しや事業の開拓、拡大や技術などを学ぶ研修会です。

2025年度は、新たに農福経営実践塾をスタート。2027年3月までの2年間で、農業を実践し、事業所の経営を見直し発展させることで工賃・給料アップを実現していきます。「販路拡大研究会(2023年度からスタート)」は、広島県の障がい者施設が実行委員となってマルシェを開催する「第3回ヒロシマルクト」、お菓子を製造する施設が参加して、ノウハウや情報を共有し、工賃向上をめざす「お菓子の販路拡大研究会」を実施しました。また、夢へのかけ橋実践塾・新堂塾で学んだ1～4期の塾生OB・OGによる「働く力と工賃向上テキスト制作委員会」を発足。アドバイザーの菅野敦氏の「働く力を伸ばし」、「働く『態度』を育てる」理論を体系的に整理し、塾生OB・OGの取り組みも併せて1冊の本にまとめました。

## 2025年度「農福経営実践塾」実施報告

### I | 農福経営実践塾とは

ヤマト福祉財団を創設した小倉昌男初代理事長の経営学を基本に、農業を事業とする福祉施設の経営者・責任者を対象に、利用者の工賃・給料アップを目的とする農福経営実践塾を2025年4月より開講しました。農作物の栽培から、収穫までの技術の習得はもとより、福祉施設としての就労支援や施設運営の取り組み方や改善について、また原価計算や収支管理などの事業経営の基礎から学び直します。全国から公募し、20事業所から12事業所が選考され、2年間の学びと実践がスタートしました。

### II | 研修内容

- ・ 農業を事業として働く利用者の工賃向上を目標に、1泊2日の宿泊研修を2年で6回開催
- ・ 集合研修の間に、専門家によるオンライン研修会を数回開催
- ・ 栽培や販売など農業に関する取り組み方や改善について、各自が事業プランを作成  
実現可能な実施計画を策定し、PDCAサイクルをかけて成果を出します
- ・ グループディスカッションを行い、塾生同士の進捗状況の確認や、先行施設の紹介や  
現地見学会も研修に取り入れます



●統括塾長

(一社)空 代表理事 熊田芳江氏  
第14回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

一般社団法人日本農福連携協会 顧問、精神保健福祉士、社会福祉士。1993年から精神障がい者福祉に従事、2004年「こころん」を設立して農業と福祉を連携する事業を展開する。2010年養鶏事業を開始、2011年社会福祉法人格を取得して総合的な就労、雇用、活動の場をつくる。2020年一般社団法人空を設立し、「土水空ファーム」を開設、現在にいたる。農林水産省ディスカバー農山漁村(むら)の宝第4回選定アクティブ賞受賞、ヤマト福祉財団主催夢へのかけ橋実践塾熊田塾塾長(2015-2017年)、農福連携実践塾塾長(2020-2023年)、農福連携実践塾ぶどう栽培塾・たまねぎ栽培塾統括塾長(2023-2024年)



●塾長

(NPO)ピアファーム 理事長 林 博文氏  
第16回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

2008年農業で工賃給与向上をめざすことを事業目標にピアファームを設立。2011年福祉事業のNPO法人として全国数少ない認定農業者になる。農林水産省ディスカバー農山漁村(むら)の宝第4回選定、農福連携実践塾講師(2020-2023年)、農福連携実践塾ぶどう栽培塾塾長(2023-2024年)



●塾長

(社福)ゆずりは会 菜の花 管理者 小淵久徳氏  
第26回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

社会福祉法人ゆずりは会 菜の花 管理者。2015年スタートのヤマト福祉財団第1期熊田塾入塾、2020年スタート第2期熊田塾にも参加。2021年ノウフクアワード2021審査員特別賞「人を耕す」受賞。2022年関東農政局ディスカバー農山漁村(むら)の宝選定。2022年ノウフクアワード2022グランプリ受賞、農福連携実践塾たまねぎ栽培塾塾長(2023-2024年)

**Ⅲ | スケジュール** 開講期間：2025年4月～2027年3月 2年間

2025年4月	<b>第1回 研修会／2025年4月18日(金)・19日(土)</b> 開催場所：仙台MTビル会議室(宮城県仙台市) ・講座1 塾長講話(熊田統括塾長) ・講座2 小倉昌男と「福祉を変える経営」(財団 井上常務理事) ・講座3 農業で工賃向上をするための事業経営 ワークショップ(小淵塾長)
8月	<b>第1回 オンライン研修／2025年8月26日(火)</b> ・「農福連携をめぐる情勢」農林水産省農福連携推進室 藤田室長
9月	<b>第2回 研修会／2025年9月29日(月)・30日(火)</b> 開催場所：NPO法人ピアファーム(福井県あわら市) ・講座1 就労支援事業における工賃向上をめざした農福連携経営(林塾長) ・グループワーク ・講座2 プロに学ぶ農業経営 野菜のプロに学ぶ栽培、販売、収益向上をめざす戦略(株)笠間農園 笠間社長) ・ピアファーム圃場視察 なし収穫体験
2026年2月	<b>第3回 研修会／2026年2月19日(木)・20日(金)</b> 開催場所：NPO法人杜の家ファーム(岡山県岡山市) ・施設見学 (株)おおもりの農園、杜の家ファーム いちご収穫体験・発送作業体験 ・講座1 いちご栽培で実現する農福連携経営(杜の家ファーム 大森前理事長) ・講座2 共生社会デザインに向けた取り組みについて(アソシエートファーム(株)石村代表) ・塾生発表 1年間の見通し、年間実施内容について
3月	<b>第2回 オンライン研修／2026年3月19日(木)</b> ・「ゆずりは会20周年記念フォーラム」講演視聴

**農福経営実践塾：12施設** (2026年3月現在)

法人名	事業所名	事業形態	利用者	事業内容
社会福祉法人さっぽろひかり福祉会	ひかり工房	多機能型	33	パンの製造販売、パン具材の野菜生産等
社会福祉法人カシオペア障連	多機能型事業所はあとすぽっと	多機能型	46	ピーマンやネギなど、施設外就労など
社会福祉法人市川レンコンの会	市川レンコンの家	就労継続支援B型	21	リサイクル、封入封緘、農作業
一般社団法人ぶどうの木	ぶどうの木	就労継続支援B型	6	無農業で農業、まだ2年目 ごまの製造販売
社会福祉法人恵の園	障害福祉サービス事業所シャローム	就労継続支援B型	20	りんご・野菜の製造販売、加工品製造販売
株式会社ウィンパートナーズ	ぼかぼかワークス	就労継続支援B型	15	お米を中心に自然栽培農業
一般社団法人エンジェルガーデン南国	南国にしがわ農園	就労継続支援B型	29	自然栽培グアバ栽培、加工・卸販売等
NPO法人スロー LIFE	スロー Warku大和	就労継続支援B型	29	無農業・無化学肥料の農業
一般社団法人空	土水空ファーム	多機能型	13	有機農業を中心にトマトなど野菜栽培
一般社団法人想	就労継続支援B型事業所カンタービレ	就労継続支援B型	10	農業、養鶏、給食用たまねぎ皮むき、清掃ほか
三休合同会社	三休	就労継続支援B型	26	京野菜の栽培、ハーブ加工、その他
株式会社ネイチャープラス	サン・フィールド	就労継続支援B型	18	農業法人として農福連携、6次化

## 第1回 研修会

- 日 時：2025年4月18・19日
- 開催場所：仙台MTビル会議室  
(宮城県仙台市)

### 農業経営を実践する新たな塾が開講

4月18日・19日宮城県仙台市の仙台MTビル会議室で開催。全国20事業所から選考された12事業所の塾生が集まりました。塾生の現状を共有し、目標工賃をいくらに設定しそのために必要な売上はどのくらいか、売上をあげるためにどのような計画をたてれば良いか、自身の目標を出し、グループに分かれて議論を深めました。今後、2年間でPDCAを回しながら、施設運営・作付計画に基づいた収支計画を実践し、工賃向上の目標達成に向かって活動していきます。



## 第1回 オンライン研修

- 日時：2025年8月26日

### 農業を巡る情勢を知る

農福経営実践塾では、集合型の研修だけでなく、OBOGや他の塾のみなさんにも輪を広げ、オンラインで学ぶプログラムを企画しています。第1回目は、農福連携実践塾1期生、2期生、ぶどう塾、たまねぎ塾、農福経営実践塾、販路拡大研究会、楠元塾等々から全54名が、オンラインで参加しました。



プログラムは、農林水産省の農福連携推進室の藤田室長に「農福をめぐる情勢」を、地域資源活用推進班の渡辺係長に「地域資源活用価値創出対策」等についてご講演をいただきました。

また、久しぶりに集まった農福連携実践塾塾生OBOGの近況報告を実施。「入塾時に立てた売上目標2倍を達成した」「利用者さんも増え工賃6万円を達成した」「初めての作付けで不安だったが、甘くて美味しい雪下たまねぎができた」など、塾で学んだことが、嬉しい成果に繋がっていることが報告されました。熊田統括塾長は、「数字的にも結果や成果が出ることで自信に満ち溢れて、頼もしく思いました」と話しています。

## 第2回 研修会

- 日 時：2025年9月29・30日
- 開催場所：NPO法人ピアファーム(福井県あわら市)

### 課題解決に向け熱い議論

第2回研修会は、林塾長の施設である、福井県あわら市のピアファームで開催。1日目は、半年間の塾生の報告からスタートしました。

続けて林塾長が、塾生の質問に答える形で講義を行ったあと、グループワークを実施。「1.農業・経営について」「2.農福での地域連携」「3.利用者さん対応関連」「4.施設職員関連」の4つのテーマの中からグループで討議するテーマを選び、自分たちの課題を抽出、解決策へ議論を深めていきました。どちらも共通して施設の運営に関わる内容で、悩んでいることがわかります。今回の研修では、時間で議論を続けられなかった第1回研修の経験から、夕食も研修会場でとりながら、活発な議論を続けました。

翌日は、ピアファームで、「プロに学ぶ農業経営」と題し、施設外就労を多く受け入れている(株)笠間農園の笠間社長の講義。その後に、ピアファームの果樹園見学、梨収穫体験を行い、研修を終了しました。



## 第3回 研修会

- 日 時：2026年2月19・20日
- 開催場所：NPO法人杜の家ファーム(岡山県岡山市)

### 確実に利益を残すプロセスを学ぶ

第3回研修会は、岡山県にある、(NPO)杜の家で現場研修を実施。第2期ぶどう栽培塾の塾生施設です。いちご栽培を事業としている(株)おおもり農園から、事業を受託していちご栽培を行っています。研修初日は杜の家ファームを視察し35アールのハウスで栽培されているいちごを収穫。その後いちごの選別、パッケージ入れを体験しました。また、スタートしたばかりのぶどうハウスも見せていただきました。

翌日は、「いちご栽培で実現する農福連携経営」をテーマに杜の家ファーム大森前理事長の講義、続いてアソシエートファーム(株)石村代表の「共生社会デザインに向けた取り組みについて」というテーマで講義を受けました。

熊田統括塾長は、「お二人の『収入を綿密に計算して、確実に利益を残すプロセスをとる』というお話は、福祉が足りない部分で学ぶべきヒントが詰まっていた」と総括しました。

その後、塾生が3月度の見通しを含めた1年間の実績見込みについて発表しました。



## 第2回 オンライン研修

● 日 時：2026年3月19日

### ゆずりは会20周年記念フォーラムを視聴

第2回オンライン研修は、農福経営実践塾のメンバーに向けて、2025年12月に開催された「ゆずりは会20周年記念フォーラム」の講演を視聴する研修会となりました。一人目は、数々の賞を受賞されている京丸園株式会社の鈴木厚志氏が『気がつけば1/4が障害のある社員』というテーマで、次に大隅半島農福コンソーシアム理事兼事務局長の天野雄一郎氏による「農と福祉が交わる時～大隅半島から見る農福連携の可能性～」というテーマでの講演です。最後に、たまねぎ塾を代表して2期生の一般社団法人日々木の森の立崎弘樹氏が「たまねぎ塾青森県作付け報告」でたまねぎ栽培の収穫までを報告しました。



社会福祉法人ゆずりは会20周年に、塾生を代表して登壇、報告した農園カフェ日々木の立崎さん

## 2026ノウフクフェスタ@上野公園

● 日 時：2026年1月24・25日

● 開催場所：上野公園(東京都台東区)

### 実践塾の学びを「販売」へ

2026年1月24日(土)・25日(日)の2日間、上野公園で開催された「2026ノウフクフェスタ」に、農福経営実践塾が参加しました。2日間で30,000人を超える来場者があったこのイベントは、当塾のメンバーである「ぶどうの木」が主催したものです。ヤマト福祉財団農福経営実践塾として出展した「ノウフクマルシェ」ブースでは、塾生4事業所による新鮮な野菜や加工品を販売したほか、「ノウフク食堂」ブースへも食材を提供しました。

会場前方のステージでは、歌やダンス、手話ライブパフォーマンスなどの多彩なプログラムが繰り広げられ、オープニングから多くのお客様で賑わいました。

非常に厳しい寒波が訪れる中での開催となりましたが、ヤマト福祉財団ブースの2日間の売上は約15万円を達成。寒さを忘れるほどの熱気に包まれた2日間となりました。



ヤマト福祉財団のブースには、塾生4事業所のこだわりの加工品や新鮮野菜が並びました



## ▶ 農福経営実践塾 1年目実績 (2025年度年次報告書用)

単位:円・人

社会福祉法人さっぽろひかり福祉会 ひかり工房	△ 入塾前 2024年度	□ 1年目 2025年度	差 額 (□-△)
事業収入合計	100,508,840	111,591,345	11,082,505
利用者給料総支給額	36,161,127	40,763,144	4,602,017
利用者人数(月次平均)	14	29	15
一人当たり平均給料(月額)	89,507	100,898	11,391

社会福祉法人市川レンコンの家 市川レンコンの家	△ 入塾前 2024年度	□ 1年目 2025年度	差 額 (□-△)
事業収入合計	7,774,715	10,117,900	2,343,185
利用者給料総支給額	6,015,627	6,015,189	△438
利用者人数(月次平均)	19.4	17.4	△2.0
一人当たり平均給料(月額)	25,840	28,808	2,968

社会福祉法人恵の園 障害福祉事業所シャローム	△ 入塾前 2024年度	□ 1年目 2025年度	差 額 (□-△)
事業収入合計	8,247,502	10,786,187	2,538,685
利用者給料総支給額	5,384,086	6,194,313	810,227
利用者人数(月次平均)	18	19	1
一人当たり平均給料(月額)	23,806	26,745	2,939

一般社団法人エンジェルガーデン南国 南国にしがわ農園	△ 入塾前 2024年度	□ 1年目 2025年度	差 額 (□-△)
事業収入合計	27,252,000	27,883,000	631,000
利用者給料総支給額	10,241,000	11,842,000	1,601,000
利用者人数(月次平均)	22	25	3
一人当たり平均給料(月額)	37,000	40,000	3,000

一般社団法人空 土空ファーム	△ 入塾前 2024年度	□ 1年目 2025年度	差 額 (□-△)
事業収入合計	2,907,046	3,473,775	566,729
利用者給料総支給額	2,428,416	2,515,848	87,432
利用者人数(月次平均)	12	12	0
一人当たり平均給料(月額)	16,864	18,965	2,101

三休合同会社 三休	△ 入塾前 2024年度	□ 1年目 2025年度	差 額 (□-△)
事業収入合計	8,398,732	12,296,160	3,897,428
利用者給料総支給額	2,689,725	3,408,671	718,946
利用者人数(月次平均)	14.10	15.50	1.40
一人当たり平均給料(月額)	15,897	18,326	2,429

社会福祉法人カシオペア障障 多機能型事業所はあとすぽっと	△ 入塾前 2024年度	□ 1年目 2025年度	差 額 (□-△)
事業収入合計	14,096,546	13,288,788	△807,758
利用者給料総支給額	9,671,549	9,615,795	△55,754
利用者人数(月次平均)	31.9	31	△1
一人当たり平均給料(月額)	25,265	25,850	585

一般社団法人ぶどうの木 ぶどうの木	△ 入塾前 2024年度	□ 1年目 2025年度	差 額 (□-△)
事業収入合計	5,110,491	6,752,812	1,642,321
利用者給料総支給額	774,089	1,284,768	510,679
利用者人数(月次平均)	5.60	7.89	2.29
一人当たり平均給料(月額)	11,519	13,570	2,050

株式会社ウィンパートナーズ ぽかぽかワークス	△ 入塾前 2024年度	□ 1年目 2025年度	差 額 (□-△)
事業収入合計	20,680,842	25,109,309	4,428,467
利用者給料総支給額	3,986,607	5,557,292	1,570,685
利用者人数(月次平均)	15	14	△1
一人当たり平均給料(月額)	22,148	33,067	10,919

NPO法人スローLIFE スローWORK大和	△ 入塾前 2024年度	□ 1年目 2025年度	差 額 (□-△)
事業収入合計	7,646,018	8,378,788	732,770
利用者給料総支給額	6,116,900	6,674,450	557,550
利用者人数(月次平均)	24	22	△2
一人当たり平均給料(月額)	21,508	25,054	3,546

一般社団法人想 就労継続支援B型事業所カンターピレ	△ 入塾前 2024年度	□ 1年目 2025年度	差 額 (□-△)
事業収入合計	7,641,429	7,618,241	△23,188
利用者給料総支給額	3,985,754	3,673,594	△312,160
利用者人数(月次平均)	9	8	△1
一人当たり平均給料(月額)	35,715	37,794	2,079

株式会社ネイチャープラス サン・フィールド	△ 入塾前 2024年度	□ 1年目 2025年度	差 額 (□-△)
事業収入合計	6,258,384	6,097,257	△161,127
利用者給料総支給額	5,227,094	4,401,040	△826,054
利用者人数(月次平均)	10	8	△2
一人当たり平均給料(月額)	43,559	45,844	2,285

## 農福連携実践塾 第2期たまねぎ栽培塾成果発表

- 日 時：2025年12月13日
- 開催場所：ホテルラシーネ新前橋 会議室

## 数字と向き合い、失敗を成果に繋げた1年

成果発表会では、2024年6月から1年間、それぞれ目標を設定し、たまねぎ栽培に関する技術習得や、農作業に関する取り組み、作付け計画、改善方法を学ぶことができました。実践した成果を塾生が一人ずつ発表。栽培が上手くいったこと、売上が上がったこと、また失敗したこともそれを次につなげて実践している様子が報告されました。

成果発表会には、財団の山内理事長もZoomで参加し、一人ひとりに経営的な視点からコメントを、小淵塾長からも農業の実践的なアドバイスをいただきました。



オンラインで参加された山内理事長と塾長、塾生

1年間の短い期間でしたが、塾生はそれぞれに成果を上げ、塾生同士の繋がりができたことに感謝し、次への実践に向かっていきます。

# 2025年度「販路拡大研究会」実施報告

## 販路拡大研究会とは

障がい者施設でつくられた商品の販路拡大の実証実験・研究や勉強会を行う「販路拡大研究会」を2023年に発足しました。利用者さんの給料アップを目的とし、販路拡大を通じた事業所の売上向上を目指します。

販路拡大研究会の活動は二つです。一つ目は広島県内の事業所が出店する大型マルシェ「ヒロシマルクト」の開催。3回目となる2025年度は、CLiP HIROSHOMAで開催しました。

二つ目は、第10回小倉昌男賞受賞者である中崎ひとみ氏を会長として、高品質な商品、販路を拡大するためにどうするか研究を行う「お菓子の販路拡大研究会」です。2025年度は第4～7回の見学勉強会を実施しました。



● 会長：(社福)共生シンフォニー 理事長 中崎ひとみ氏

1992年から無認可の小規模作業所で働き、1996年にクッキー工房を新築後、利用者全員との雇用契約を結ぶ。2003年に社会福祉法人を取得、事業所の一つ「がんばカンパニー」は菓子工場として、年間1億円以上の売上を継続中。現在もA型事業所として、3ヵ所で60人の利用者給料を支払う就労支援収入を売り上げている。

(NPO) 就労継続支援A型事業所全国協議会副理事長、他役員多数。第10回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞(2009年)。

## ▶ お菓子の販路拡大研究会

参加施設：8施設 (2026年3月現在)

法人名	事業所名	事業所形態	主な事業内容
(株)Akari	就労継続支援A型事業所Akari	就労継続支援A型	パイの製造販売とグループ会社へのパイ卸(アップルパイなど)。
(社福)三環舎	あしたば園	就労継続B型・自立訓練・生活介護多機能型	島とうふ屋のおからクッキー・すもも酒・たんかん酒ゼリー、奄美の黄金花など観光客をターゲットにしたお菓子の製造販売、他
(社福)くまもと障害者労働センター	くまもと障害者労働センター	就労継続支援B型、生活介護	菓子製造・販売、カフェ運営、弁当製造・販売 他
(社福)薫徳会	FLAT HACHIROKU	就労継続支援B型、生活介護の多機能型	クッキー製造販売
(社福)オリーブの樹	オリーブ轟	就労継続支援A・B型多機能型	菓子製造販売、弁当製造販売、アイスクリーム製造販売、レストラン運営他
(社福)眉文会	就労支援事業所 創楽	就労継続支援B型	菓子・パン製造 農業 受託作業
(社福)袖の木福祉会	YUZUKA	就労継続支援B型	お菓子の製造販売
(NPO)コミュニティワークス	地域作業所hana	就労継続支援B型	製菓・縫製・内職

## スケジュール

- ・第4回見学勉強会 2025年7月10～12日 (社福)眉丈会創楽
- ・第5回見学勉強会 9月25～27日 ヤマト運輸葉山研修センター
- ・第6回見学勉強会 2026年1月23・24日 (社福)薫徳会 FLAT HACHIROKU
- ・第7回見学勉強会 2月27・28日 (社福)くまもと障害者労働センター(おれんじ村)

### 第4回 見学勉強会

- 日 時：2025年7月10～12日
- 場 所：(社福)眉丈会創楽

#### 分科会活動で新しいチャレンジを

第4回販路拡大研究会は7月10～12日で石川県河北市にある(社福)眉丈会創楽で開催。第4回は、それぞれの販路拡大に向け具体的な活動をするため三つの分科会を作りました。今まで失敗を恐れてチャレンジできなかったことも、分科会の中で仲間と一緒に検証しながらやってみる事にしました。たとえばSNSのアカウントを立ち上げても、活用されていない状況の解決に向けての活動や、集客を増やすためのチラシやイベントの企画など、中崎会長の助言をいただきながら、次回の研究会までにブラッシュアップする事になりました。参加事業所の2年後の目標工賃とそれに向けたアクションプランの発表を行い、第4回研修会を終了しました。



### 第5回 見学勉強会

- 日 時：2025年9月25～27日
- 場 所：ヤマト運輸葉山研修センター

#### 「誰に、何を届けるか」をとことん考え抜く

第5回は、滋賀県でデザイン・商品企画を手がけ、B型事業所でのデザイン指導など多方面で活躍されている面白創(おもしろそう)代表のヒロセタクヤ氏を講師にお迎えしました。「ターゲットを知り商品価値を高める」というテーマで講義をいただいたほか、実践的なグループワークを実施。ヒロセ氏と中崎会長の助言を交えながら、それぞれに持ち寄った商品を題材に裏めあったり、商品づくりやキャッチコピーを練り上げたりなど、自分たちでとことん考えることに重点を置いた見学勉強会となりました。

最終日には分科会による進捗発表も行い、今後、成功したこと・失敗したことの大小に関わらず検証結果の記録を残すこととしました。



## 第6回 見学勉強会

- 日 時：2026年1月23・24日
- 場 所：(社福)薫徳会 FLAT HACHIROKU

### 成功と失敗から得た教訓を糧に、学びを深める

第6回からは、業務開発コンサルティングや6次産業化支援等を手がける、株式会社プラスリジョン代表の福井佑実子氏を講師にお迎えしました。

研修ではこれまでの内容を振り返りつつ、以下のテーマについて改めて学びを深めました。

- 原価計算、単価設定、売上目標の立て方
- パッケージデザインやターゲット設定による付加価値の向上
- 「衛生管理」のケーススタディ

各研究生による発表では、成功事例のみならず失敗事例から得た教訓も共有。現場の悩みに対する具体的なアドバイスや活発な情報交換が行われ、回数を重ねた研究会メンバーの繋がりも深まり、販路拡大への決意を新たにす有意義な2日間となりました。



## 第7回 見学勉強会

- 日 時：2026年2月27・28日
- 場 所：(社福)熊本障害者労働センター(おれんじ村)

### 品質・衛生管理、製造工程を学ぶ

今回の会場となった「おれんじ村」は障がい当事者が代表を務める事業所です。「工賃をさらに向上させたい」と、研究生に交じって代表もこの研修に参加しました。

第6回に続き講師には株式会社プラスリジョン代表の福井佑実子氏を迎え、実務に直結する

- 品質・衛生管理の徹底に関する各研究生の取り組み
- 生産管理の最適化「効率的な製造工程表の作成」

について学びました。

おれんじ村の見学では、現地の製造スタッフと「良い点」や「改善すべき点」について活発な意見交換を行い、現場ならではの悩みに対する具体的なアドバイスが飛び交う貴重な機会となりました。参加者同士の横のつながりも一段と深まり、全員が販路拡大への決意を新たにす、非常に有意義な2日間となりました。



## ▶ 2025年度実績

### 事業所：株式会社Akari (A型/愛媛県松山市)

項目(1ヵ月平均)	入会前の状況 (24年4月～24年9月)	1年半経過 (25年4月～26年2月)	入会前比
収入合計(円)	2,494,431	5,224,564	209.4%
利益(円)	1,251,385	2,491,498	199.1%
利用者人数(人)	15	18	124.0%
月額平均給料(円)	104,640	114,689	109.6%

### 事業所：くまもと障害者労働センター (B型/熊本市東区)

項目(1ヵ月平均)	入会前の状況 (24年4月～24年9月)	1年半経過 (25年4月～26年2月)	入会前比
収入合計(円)	727,670	899,454	123.6%
利益(円)	237,178	308,493	130.1%
利用者人数(人)	9	8	86.9%
月額平均給料(円)	39,720	43,217	108.8%

### 事業所：オリーブ轟 クッキー班 (A型/千葉市稲毛区)

項目(1ヵ月平均)	入会前の状況 (24年4月～24年9月)	1年半経過 (25年4月～26年2月)	入会前比
収入合計(円)	1,498,141	1,603,426	107.0%
利益(円)	666,441	862,461	129.4%
利用者人数(人)	7	8	113.0%
月額平均給料(円)	131,007	139,738	106.7%

### 事業所：YUZUKA (B型/福岡県糟屋郡)

項目(1ヵ月平均)	入会前の状況 (24年4月～24年9月)	1年半経過 (25年4月～26年2月)	入会前比
収入合計(円)	830,462	1,071,311	129.0%
利益(円)	268,750	472,764	175.9%
利用者人数(人)	20	17	87.6%
月額平均給料(円)	14,701	17,879	121.6%

### 事業所：あしたば園 (B型/鹿児島県奄美市)

項目(1ヵ月平均)	入会前の状況 (24年4月～24年9月)	1年半経過 (25年4月～26年2月)	入会前比
収入合計(円)	408,277	613,371	150.2%
利益(円)	66,112	73,426	111.1%
利用者人数(人)	6	5	77.3%
月額平均給料(円)	31,359	34,446	109.8%

### 事業所：FLAT HACHIROKU (B型/名古屋市東区)

項目(1ヵ月平均)	入会前の状況 (24年4月～24年9月)	1年半経過 (25年4月～26年2月)	入会前比
収入合計(円)	77,137	209,720	271.9%
利益(円)	14,852	139,236	937.5%
利用者人数(人)	8	6	79.4%
月額平均給料(円)	5,958	5,999	100.7%

### 事業所：就労支援事業所 創楽 (B型/石川県かほく市)

項目(1ヵ月平均)	入会前の状況 (24年4月～24年9月)	1年半経過 (25年4月～26年2月)	入会前比
収入合計(円)	337,469	520,181	154.1%
利益(円)	81,965	231,730	282.7%
利用者人数(人)	3	3	96.9%
月額平均給料(円)	25,339	25,436	100.4%

### 事業所：地域作業所hana (B型/千葉県木更津市)

項目(1ヵ月平均)	入会前の状況 (24年4月～24年9月)	1年半経過 (25年4月～26年2月)	入会前比
収入合計(円)	442,369	498,076	112.6%
利益(円)	97,130	146,739	151.1%
利用者人数(人)	11	12	107.4%
月額平均給料(円)	20,785	15,248	73.4%

## 第3回 Hi-roshimarkt(ヒロシマルクト)

- 日 時：2025年8月31日
- 場 所：CLiP HIROSHIMA

### 「音楽×福祉」で大盛況!約800人が来場

今回は広島県内から23の福祉事業所が出店し、約800人ものお客様にご来場いただきました。会場にはキッチンカーも登場。パンや惣菜などの軽食から、冷たい飲み物、ジェラート、プリンといったスイーツ、さらには個性豊かな雑貨やアクセサリまで、多種多様な商品が並びました。

今回のテーマは「音楽×福祉」です。常にポップな音楽やダンスが会場を彩り、多彩なイベントも相まって、大人から子どもまで飽きることなく過ごせる「あつという間の日」となりました。

おかげさまで、各事業所の商品を多くの方に知っていただくとともに、たくさんのお買い上げをいただくことができました。このイベントが、商品の販路拡大、さらには工賃向上へとつながっていく大きなきっかけとなることを期待しています。



# 「働く力と工賃向上」テキスト制作委員会の報告

第9回ヤマト福祉財団小倉昌男賞を受賞した故・新堂薫氏を塾長とする「新堂塾」。そのOB・OG有志と、アドバイザーの菅野敦氏による協同執筆本、『働く力と工賃向上』障がいのある方が働くとは』を発行しました。

利用者の「働く力と工賃向上」への取り組みは、2010年にスタートした「働くちから革新塾」(夢へのかけ橋実践塾の前身)から始まりました。この塾は、前述の故・新堂薫氏を塾長、アドバイザーとして東京学芸大学名誉教授の菅野 敦氏を迎え、成果を上げている塾長の実践を水平展開していくことを目指しました。参加した塾生たちは、塾長のやり方を学び、真似をし、それぞれの現場で実践することで着実に成果を上げてきました。

こうした取り組みをさらに広げていこうという目的で、菅野 敦氏の理論と塾生OB・OGの実践をまとめたテキストを制作することとなりました。

2025年4月に「働く力工賃向上テキスト制作委員会」を立ち上げ、OB・OGたちが取り組んできた実践内容や、成果、課題など現状を報告。テキストの目的や作業の役割等を共有した上で執筆をスタートしました。約10ヵ月の制作期間を経て、2026年3月に無事発行致しました。

今後は本書をテキストとして、セミナーの開催を予定しています。全国の事業所に活用していただくことで、利用者の働く力を伸ばし、工賃向上に繋げることを目的として、セミナーでは「働く力と工賃向上」塾の塾生募集に繋げていきます。

## ■ 働く力と工賃向上テキスト制作委員会委員

監 修	菅野 敦氏	東京学芸大学名誉教授 博士(教育学) (社福)武蔵野千川福祉会 理事長
塾生OB・OG	稲垣 伸治氏	(社福)ゆたか福祉会
	高橋 勝茂氏	(NPO)出愛いの里福祉会
	佐藤 資子氏	(社福)武蔵野千川福祉会
	吉川 大幹氏	(社福)新潟市中央福祉会
	亀村知恵美氏	(社福)武蔵野千川福祉会
	福本 親吾氏	(NPO)福岡福祉とびうめ会
	出口 貴行氏	(社福)北九州障害者福祉事業協会
	泉 栄氏	(一社)あんずの森
	豊崎 景太氏	(社福)修光学園



監修の菅野敦氏



テキスト制作委員会全体会議(2025年5月)



働く力と工賃向上  
障がいのある方が働くとは  
A4判 2026年3月初版  
公益財団法人ヤマト福祉財団 発行

## (公3) 顕彰事業

## ヤマト福祉財団小倉昌男賞の贈呈

障がいのある方の仕事づくり、雇用の拡大、労働条件の改善、高い給料の支給、そしてより多くの障がいのある方に働く喜びと生きがいを提供することで自立支援に貢献された個人を、毎年2名選出・表彰するヤマト福祉財団小倉昌男賞。受賞者には、正賞として雨宮淳氏作のブロンズ像『愛』、賞状、副賞 賞金100万円をお贈りしています。



## 第26回ヤマト福祉財団小倉昌男賞贈呈式

- 日 時：2025年12月4日
- 会 場：日本工業倶楽部

障害者週間の12月4日、第26回ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式を日本工業倶楽部(東京都)で開催しました。受賞者は、(NPO)わかば福祉会 理事長の久保田 静子さんと(社福)ゆずりは会 理事であり菜の花 管理者の小淵久徳さん。年齢が倍も違う方の同時受賞は本賞では初めてのことです。そんなお二人を祝して、会場にはお二人の関係者と歴代受賞者など約120名が集いました。

主催者挨拶で山内理事長は「奇しくも小倉昌男と久保田さんは同じ年です。特殊学級の教師だった久保田さんは、障がい者である教え子の将来を案じ、昭和44年に私財を投じてわかば学園を設立。以来56年間、母親のような愛情を注ぎ、多くの利用者さんたちの社会的な自立を支え続けています。小淵さんは、農福連携の第一人者です。福祉も農業もゼロから学び、機械化や利用者の特性に応じた作業分担などで工夫を続け、生産量を飛躍的に増大し高工賃を実現。そのノウハウを本財団の農福経営実践塾で多くの塾生たちに伝えてくれています」と紹介しました。

ブロンズ像を手にした久保田さんは「百歳を迎えましたが、これからも障がいのある人たちが、みんなと同じように幸せになるよう努力したいと思います」と挨拶。小淵さんも「たくさんの人との出会いに恵まれ、ここに立つことができました。これからも利用者さんのために挑戦を続けます」と喜びの声とともに今後の決意を伝えてくれました。



## 久保田静子さん

(NPO) わかば福祉会 (兵庫県加古川市)

### だれもが「先生」と慕う百歳の現役理事長

うちの玄関には、たくさんの実をつけるシークワサーがありますが、これは“主人の木”なんです。授賞式の日、いまから東京へ行って来ますよ、と報告してから家を出ました」。そう微笑む久保田さんは、半世紀を超えて、障がいのある方に寄り添い続けています。1969年、久保田さんは教職を辞してわかば学園の開設に踏み切りますが、そのきっかけは、ある生徒の切ない声を聞いたからでした。

「とっても明るくみんなの人気者だった子が“中学を卒業したら、もう私の行くところなんてないんや”と、一日中ぼんやりテレビを眺めているんです。この子たちの居場所をなくしてしまったら絶対あかん!と思いました」。

そんな久保田さんを特殊学級の先生や障がい者児童の親の会、そして地元の慈善団体などが応援。わずか5畳の作業所に5人の園生が集い、最初はクッキー作りからスタートしました。

しかしなかなか売上に結び付かず、久保田さんは無償無給で懸命に地元の喫茶店や生協などに売り込みを続けます。そんな姿に心を動かされた方が、閉鎖する印刷工場の機械を提供。名刺、挨拶状、年賀状などの印刷業を始めると、作業所の運営はやっと軌道に乗り始めました。

ところが1979年、突如、作業所の立ち退きを命じられることに。「みんなと離れたくない」と泣く子どもたちを抱え、久保田さんは私有地に事業所を建てることを決断します。でも資金はまったく足りません。すると園生の父親(大工さん)やボランティアが力を合わせ、古くなった住宅などの木材や窓枠、瓦などをかき集め、新しい事業所を建ててくれたのです。

「私はいつもいろんな方に助けられて来ました。だから苦労したなんて思ったことは一度もありません」。

その後も多くの地域の方の協力を得ながら、久保田さんは農園、菓子工房、喫茶店と仕事を広げ続けていきます。さらに、自立して暮らせる生活の場を、とグループホームも設立していきました。

「開所したところから世の中は大きく変わりましたが、私の目指すものは変わりません。障がいの有無に関係なくみんなが幸せになれるように、私はもっと勉強せんとはいけません。この歳になると覚えるのも大変ですが、少しでもお役に立ちたいと思います」。

開設当初から通い続ける利用者さんは「いまも昔も変わりなく、厳しいけど優しい先生」と話します。その気持ちは地域の方にも同じ。久保田さんは百歳となったいまも現役理事長であり、だれからも「先生」と慕われる存在です。



## || 小淵久徳さん

(社福) ゆずりは会 菜の花 (群馬県前橋市)

### 農地と給料を約4倍にした経験を全国に

ゆずりは会の面接を受けたとき、小淵さんは福祉も農業も完全な初心者でした。「だから、障がいのある方と農業の親和性は高く工賃アップにもつながる。君には農業と福祉のプロになってほしいと言われて、かなり感えました」。

福祉と農業のイロハを一から叩き込まれた小淵さんは、やがて菜の花の管理者に任命されます。でもどうやって農業で収益を伸ばすのか、どうすれば利用者さんが活躍できるようにできるのか、見当が付きません。思い悩んだ小淵さんは、ヤマト福祉財団の実践塾に入塾。そこで熊田塾長に「農業にはたくさんの仕事がある。利用者さん一人ひとりをしっかり見つめれば、その人に合った作業がきっと見つかる」と教えられ、勇気を得ます。

早速、農作業を細かく分解し、利用者さんの特性・能力に合わせた仕事の振り分けを開始。また、夏野菜の売上が少ないときは冬野菜でカバーするなどの栽培計画をPDCAで回し、みんなで考え実践し、成果を上げていきます。

そんな姿を見た周囲の農家から、うちの土地を使ってほしいとの声も。すると今度は大胆な機械化で生産性を上げていきます。必要な作業に適したもの、利用者さんにも使える中古の安い農業機械を購入。これで1日かかった作業も1時間でできるようにしていきました。

さらに、利用者さんへの評価は、どれだけ仕事量をこなせただけでなく、どう努力したかの過程も大切にしました。

「利用者さん一人ひとりが自分にできる作業を担当し、力を合わせることで農業は成り立ちます。機械を扱う仕事は、花形に見えますが、ブロッコリーの枝を一つずつ落とす地道な仕事も農業には重要です。そんな作業をコツコツと積み上げて、ブロッコリーを一つ200円で売ることができるようになります。それがわかると、利用者さんも自分の仕事に誇りとやりがいを持ち、さらに次の仕事をと頑張っていけます。みんなで一緒にやるのが一番大切なんです」。

入塾時4haだった農地は16haに、平均月額給料約2万6,000円も現在は9万8,000円を超えるまでになりました。認定農業者になった菜の花は、ノウフク・アワード2022のグランプリにも選ばれ、ユニバーサルな農業モデルとして全国の福祉施設に注目される存在になっています。

現在、小淵さんは自ら培ったノウハウを農福経営実践塾の塾長として、惜しむことなく塾生たちに伝えていきます。

「私は熊田塾長の教を自ら実践して、初めてその真意を理解できました。今度は私がいろんな体験を通して上手く塾生たちに伝えていきたいと考えています」。



## (公5) 復興・再生支援事業

## 復興・再生支援事業

## JDF能登半島地震支援センターへの助成

2024年1月1日、新年の団らんを楽しんでいた石川県の障がいのある方たちを、最大震度7を観測する激しい揺れが襲いました。輪島市沿岸では最大約4mも地面が隆起。次々と津波、火災、家屋の倒壊などの災害が発生し、交通網や水道のライフラインも寸断されました。



ヤマト福祉財団は、被災された障がいのある方と福祉事業所の支援を行うためにJDF(日本障害フォーラム)が2024年5月に石川県七尾市に開設した「JDF 能登半島地震支援センター」への緊急助成を開始。その後もセンタースタッフが事業所や個別支援などに力を尽くすことができるように助成を行い、2025年度までの2年間を支援しました。

## ▶ JDF(日本障害フォーラム)の現地活動支援

## ■助成金：5,000,000円

震災から1年が経過し、2025年度になっても被災された事業所や個別支援は増加する一方です。ヤマト福祉財団は、その支援に従事するJDF能登半島地震支援センターのスタッフマネジャー 大野健志さんに同行し、4月末、現地での状況を視察しました。

大野さんは、JDFの加盟団体からボランティアで参加されている方です。「支援スタッフはワンクール約1週間、4~6名の体制で当センターに寝起きし、被災された利用者さんや事業所の支援活動を行っています。現在進めているのは、利用者さんの通院や事業所への送迎、公費解体前の被災した利用者さんの自宅や事業所内の片付けなどです」。

避難所で暮らす利用者さんの状況は想像以上に厳しく、それをケアする施設職員自身も被災者であり、疲労やストレスは互いにどんどん溜まっていくばかり。そのサポートもスタッフの大切な役目となっています。しかしJDFの加盟施設自体が慢性的な人手不足であり、ボランティアに参加するには多くの仲間の理解と協力が不可欠であり、支援活動を続けるには、当然、運営資金も必要です。

「助成いただいたヤマトグループのみなさん、ヤマト福祉財団さんには、本当に感謝しています。被災した障がいのある方とご家族、支援する職員・事業所など、だれ一人として取り残されることがないように、私たちにできることを懸命に続けていきます」。



大野健志氏(中央)

## ●能登半島地震発生後の利用者さんは…

みなし福祉避難所(約460施設)に最大1,600人

## ●利用者さんの現状は…

- ・避難先の施設と入所契約をした、別の地域に移った 1,003人(46%)
- ・地震発生前の自治体に戻った 846人(39%)
- ・入院など 309人(15%)

※2025年4月時点

(公6) 団体・活動支援等事業

# (社福) ヤマト自立センターの報告

(社福)ヤマト自立センターの設立は2005年9月。障がいのある方が働きながら一般就労に向けてトレーニングする場をヤマトグループとして直接運営することになりました。「就労移行支援事業」を中心に、障がいのある方が一般企業への就労を目指す事業に取り組んでいます。2006年5月にスワン工舎新座、2013年10月には羽田クロノゲート内にスワン工舎羽田が開所しました。

## 第17回卒業者の集い

- 日 時：2025年4月19日
- 場 所：志木市民会館

### 必要とされる喜びを

スワン工舎を卒業されたOB・OGを集めて、その年度に卒業された方に修了証を授与する「卒業者の集い」も、17回目を迎えました。山内理事長から16名(欠席7名)の新卒業者へひとりずつ修了書を授与し、続けて10年以上の勤続を達成した永年勤続者を表彰。ご家族、来賓、さらに歴代卒業生73名から盛大な拍手が贈られました。また山内理事長は「みなさんが、豊かで楽しい人生を送ることができるように、私たちはこれからも応援していきます」と伝えました。

表彰式のあとはお料理やクイズが用意された懇親会へ。年に一度、卒業者の集いで再会できるこの機会は、スワン工舎ファミリーのよりどころになっています。



## 彩ジョブ おしごと発見フェア

- 日 時：2026年1月31日
- 場 所：志木市民会館

### 埼玉県版おしごと発見フェアのプレ開催

埼玉県で初めて「働きたい障がい者と採用したい企業」を繋ぐ参加型イベントを約90名の参加者を集めて、志木市民会館で開催しました。

ヤマト運輸をはじめ参加された企業・団体は七つ。山内理事長は「おしごと発見フェアを沖縄県外で開催する初の試み。このイベントを全国に広げ障がいのある方がもっと活躍できる世の中になっていくことを目指しています」と挨拶。「こんな仕事があると知らなかった」と参加者。企業は「経験してもらうのが一番の近道」と話します。同時に開催した「おしごと何でも相談コーナー」では、障がい者就業・生活支援センターZAC職員の方がアドバイスをを行いました。



【おしごととチャレンジ体験会出展企業・団体一覧】(株)角川クラフト／(株)JR東日本グリーンパートナーズ／(株)ホンダ太陽／(株)舞浜コーポレーション／(株)松屋フーズ／(社福)めぐみ会／ヤマト運輸(株)

【後援】厚生労働省 埼玉労働局／埼玉県／埼玉県教育委員会／独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構JEED／公益財団法人ヤマト福祉財団

【協力】障害者就業・生活支援センターZAC／十文字学園女子大学

【主催】(社福)ヤマト自立センター障がい者就業・生活支援センターSWAN

# 日本障害フォーラム (JDF) の報告

2006年、国連総会で障がい者を理由とした差別禁止と合理的配慮を求める障がい者の権利条約が採択されました。日本は2007年にこの条約に署名し、2014年1月に批准しました。

日本では権利条約採択2年前(2004年)に、JDFが障がい者団体を中心に組織されました。国連対応を念頭に、それまで障がいの種類によって独立していた組織が連携したのです。これ以降、障がい者の権利を推進するため、国連の作業部会や日本政府に意見書を提出するなど、積極的な活動を開始しました。ヤマト福祉財団は、JDFに対して、他の福祉財団とともに公益財団法人助成財団センターを窓口とした共同助成を行ってきました。

## ▶ JDFの活動

全国の地域障がい者組織と連携し、条約の内容や総括所見の考え方について幅広い方々と共有し、国内制度の改善を具体的に実現していくため、JDF全国フォーラム(12月4日)、地域フォーラムin石川(1月16日)が開催されました。全国フォーラムでは、「障害者権利条約をめぐる世界の動向と国内課題 ～次世代への取り組み」をテーマに、国連障害者権利委員会委員長であるキム・ミヨン氏による基調講演が行われたほか、同委員会委員の田門浩氏による特別講演が行われました。また、地域フォーラムでは、「能登半島



地域フォーラムin石川

地震から2年 ～障害のある人の暮らしと復興への取り組み」をテーマに、JDF能登半島地震支援センターからの活動報告のほか、被災地の能登で暮らす当事者や支援者の生の声が届けられました。

このほか、JDFでは、権利条約や総括所見の実施に向けた取り組みの一環として、本年度は「加古川市手をつなぐ育成会」および「西宮市手をつなぐ育成会」の皆さんとともに、啓発冊子「総括所見のポイント解説 わかりやすい版」を活用した学習会を開き、障がい者本人の視点を通じた権利の実現などについて意見交換を行いました。また、内閣府事業であるイタリア派遣団の派遣青年との意見交流を行い、インクルーシブ教育を含む共生社会への取り組みなどについて話し合いました。さらに、国内法制度のバージョンアップに向けては、JDFの各構成団体からの委員により構成される政策委員会を定期的に開催し、超党派議員や省庁との連携や意見交換の実施、声明の表明を通じながら、条約実施を通じた国内法制度の向上を目指しました。

# 自然栽培パーティ | (一社)農福連携自然栽培パーティ全国協議会 | の報告

2015年、第15回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者の佐伯康人さんを指導者に、5ヵ所の障がい者施設が「無農薬・無肥料」の自然栽培農法の検証プロジェクトとして「水稻栽培チャレンジ」を実施しました。2016年そのプロジェクトメンバーを前身として一般社団法人を発足。障がい者が自然栽培で農業に取り組み、10周年を迎えました。「ニッポンを健康に」を合い言葉に、2025年度末現在、全国61施設140ヵ所にまで自然栽培パーティの仲間が拡大しています。ヤマト福祉財団は水稻栽培チャレンジからスタートした自然栽培パーティの活動をさまざまな角度から支援しています。

## 自然栽培パーティ全国フォーラムin豊田市

- 日 時：2025年11月22日
- 場 所：豊田市福祉センター

### 自然栽培パーティ10周年を迎えて

2025年11月22日、愛知県豊田市において「自然栽培パーティ全国フォーラムin豊田市」を開催しました。本フォーラムは、自然栽培や農福連携に取り組む福祉事業所や関係者が全国から集まり、実践や成果を共有するとともに、今後の展望を考えることを目的として毎年開催しているものです。今回は設立10周年の節目の年でもあり、全国の福祉事業所、農業関係者、行政、企業関係者など400名以上が参加しました。

当日は、自然栽培パーティの10年間の歩みを振り返るトークセッションをはじめ、愛知県内の会員施設による実践報告が行われ、農業を通じた障がいのある人の働く場づくりや地域との連携の広がりが紹介されました。

最初に登壇した山内理事長は財団Newsを振り返りながら、「成果が約束されていない中でも、まずやってみよう」と踏み出した」当時の想いを、設立のきっかけを作った佐伯康人さんは「宅急便が全国に広がったように、自然栽培パーティも未知への挑戦だったからこそ今がある」と、話されました。

また、日々農業に取り組む利用者を「農福師」として表彰する「自然栽培パーティアワード」では、全国から17名が受賞し、活動の成果を共有しました。

自然栽培パーティ名誉顧問である木村秋則氏を迎え、自然栽培の可能性や今後の展望について語り合うトークセッションを実施。フォーラムを通して、自然栽培と農福連携の意義を改めて確認するとともに、関係者同士の交流や学びを深める機会となり、今後の活動のさらなる発展につながる場となりました。



# 全Aネット | (認定NPO) 就労継続支援 A型事業所全国協議会 | の報告

当財団は、2016年の実態調査支援以来、一貫して全Aネットの活動を支援しています。2025年度も「良きA型事業所の拡大」を目指し、全Aネットによる質の高い就労支援の定着を後押ししました。

具体的には、報酬改定のスコア方式に見合った「優良A型事業所認定制度」のブラッシュアップを支援し、良質な事業所の基準や到達点の明示をバックアップしました。また、全国および地方でのセミナー開催を援助することで、正しい運営・経営ノウハウの普及を図るとともに、事業所間のネットワーク構築と地方の孤立防止に寄与しました。

## 就労支援セミナーin小倉 これでもいいのか?! どうするA型!

● 日 時：2025年10月25日

● 場 所：小倉リーセントホテル(北九州市小倉北区)

### A型制度を取り巻く現状と課題

本セミナーでは、就労継続支援A型(以下、A型)制度の創設から20年を迎え、現状の課題と今後の制度設計について、行政・有識者・実践者の多角的な視点から議論が交わされました。一部ではパネルディスカッション、二部では事例発表が行われました。

パネルディスカッションの冒頭、村木太郎氏により、A型のミッションが「雇用機会の提供」と「福祉的訓練」の二重性が制度の特徴であることが説明されました。2024年度のスコア方式改定に伴い、事業所の二極化が加速し、経営悪化による大量解雇やB型への移行が深刻な社会的課題となる中、現状の制度設計に対し、収益を確保し最低賃金を保障する「企業」としての側面と、利用者の特性に合わせた支援や訓練を行う「支援機関」としての側面があり、制度の再定義が強く求められています。



### A型の将来像を巡る議論

福田裕士氏((株)ジルベルト)による現場の実践報告では、かつての「悪しきA型」から、徹底した事業再建により高い利益と就職定着を実現している事例が紹介されました。清潔な職場環境や動画編集等の多様な職域開発、基本姿勢を重視した人事評価が、利用者の就労意欲を喚起する鍵となっています。

行政的視点から小野寺徳子氏(元厚労省障害者雇用対策課長)は、2022年度に成立した制度改正により、「短時間就労(10時間以上)」の促進や、障害者手帳の有無に捉われない「多様な働きづらさ」への対応、そしてA型を「国が応援すべき雇用契約の場」として位置づける方針であることを示されました。

今後のA型のあり方については、現場の実態として、「一般就労への移行を目指す機能」「事業所での継続雇用を通じて地域生活を支える機能」「手帳非保持者(引きこもり、難病等)を含む就労困難者に働く機会を提供する機能」の三つの方向性が混在している状況が示され、パネリストからは、これらを単純に三つの類型として切り分けることの難しさが指摘されました。

A型という制度全体の中でこれらの役割をどう整理し、企業が「雇いたい」と思える人材育成のプロセスや、地域課題の解決に寄与する「地域資源」としての価値を再認識するなど、福祉と労働の両面から柔軟に制度を運用していく必要性が強調されました。

### 新たな研究会の発足

パネルディスカッションの締めくくり全Aネットによる「A型事業所のあり方研究会」の立ち上げが発表されました。本研究会は、既存の枠組みに縛られず「A型はどうあるべきか、必要か」という根本的な問い直しを含めた検討を行い、制度の根本的な見直しも視野に入れています。5年、10年先を見据えたA型制度および障害者就労のあり方を再構築の出発点として、広く意見を募りながら議論を進めていくと総括しました。

# (NPO) 医療的ケア児者と 家族を社会につなぐネットワークの報告

(NPO)医療的ケア児者と家族を社会につなぐネットワーク(ブリッジネットワーク)は、「医療的ケアが必要な人々が住み慣れた地域で安心して暮らせる社会をつくること」を基本理念とし、医療的ケア児者の家族、福祉・医療関係者等、多様な分野の有志が集まり2021年8月に設立されました。重度心身障がい者のご家族は、24時間続く自宅でのケアのため、「働きたい」、「自分の時間をもちたい」という思いを断念し、社会からの孤立を深めています。こうした中、ヤマト福祉財団は、医療的ケア児者のご家族の就労に向けた支援や山積する課題を解決するために、小倉昌男賞受賞者である楠元洋子氏を中心に立ち上げたこの活動を支援しています。

## 医療的ケア児者と家族を社会につなぐネットワーク

### 1. 就労の仕組みづくり(楠元塾)

2025年3月に開催した「夢応援セミナー ～お母さんの働く夢をかなえたい～」の取り組みをYouTube動画で配信しました。また、医療的ケアが必要なお子さんを育てる保護者に向けて、少額でも「在宅で稼ぐ」経験をしてもらう狙いで、スマホだけで始められる動画編集の入門講座として「映像塾」を新規に開講しました。2期合計で20名が受講し、プロの映像作家を講師に、SNSのショート動画の作り方を実践形式で楽しく学びました。1期の修了者12名の中からは、当財団が主催する販路拡大研究会の受講生が所属する事業所とコラボレーションしたショート動画制作を受注する方が既に出てきています。

### 2. 障がい者家族の就労のための支援(ブリッジ奨学金)

本年度は、医療的ケア児者等のご家族で現在就労できていない方を対象とした資格取得支援制度の名称を「ブリッジ奨学金」に改め、引き続き、活動を推進しました。

上期には、医療的ケア児者の保護者の連携組織である任意団体「全国医療的ケアライン(通称：アイライン)」との連携が図られたことにより、申請者が13名と大幅に増加。面接による選考を経て10名が採択され、全員が所期の資格を取得しました。これにより、事業開始から5年目の当事業による資格取得者は、累計22名となりました。

### 3. 情報発信

ブリッジネットワークの取り組み内容を広く告知し普及させるため、紹介動画を積極的に配信しています。本年度はホームページおよびInstagramにてブリッジまんが3作を発表したほか、YouTubeにて6本の動画を配信しました。



映像塾修了者が制作した作品動画

# 「ゆいジョブ! 実行委員会」活動報告

現地の福祉関係者などが主体となり、2018年～2021年に自ら企画を練り準備、開催した沖縄パワーアップフォーラム。その実行委員たちが展開した分科会活動が「ゆいジョブ! 実行委員会」です。ゆいジョブ!とは「働きたいと願う障がいのある方と、雇用したいと考える企業」を結ぶマッチング情報局。そのネーミングは、沖縄の方言「ゆいまーる=助け合い」から来ています。

ゆいジョブ! 実行委員会は、地域の福祉事業所と就労先企業の紹介情報を互いに自由に閲覧できるサイトの立ち上げ、「働きたい障がい者」と「採用したい企業」をつなぐ参加型のイベント「おしごと発見フェア」も開催も。本イベントは多くの団体などの後援を得て企画・実現し、4回目の開催となりました。



【後援】 沖縄県／沖縄県教育委員会／沖縄労働局／那覇市／独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 沖縄支部／(一社) 沖縄県中小企業家同友会／沖縄経済同友会／沖縄県商工会議所連合会 (一社) 沖縄県経営者協会／沖縄県商工会連合会／琉球新報社／沖縄タイムス社

## おしごと発見フェア2025

- 日 時：2025年9月18日
- 会 場：沖縄コンベンションセンター(沖縄県宜野湾市)

単に説明を聞くだけでなく「会って、体験して、相談できる」というコンセプトで展開する「おしごと発見フェア」は、回を重ねるごとに認知度が上がっています。会場の沖縄コンベンションセンターには、県内31の企業・団体がブースを設け、初出展した企業・団体は11社に。会場には、2024年を上回る631名の参加者が、自分らしく働ける職場の発見に訪れました。人気のブースには長蛇の列ができるほどでしたが、約50名のボランティアスタッフがスムーズに運営を支えています。

会場は大きく三つのコーナーで構成。企業との出会いの場「合同企業説明会」<sup>\*1</sup>では、参加者が採用担当者に事業内容や職場環境などを直接確認できます。前年よりも各ブース間にとりもたせ、企業説明に集中できる環境になりました。

「おしごとチャレンジ体験会」<sup>\*2</sup>は、新たな仕事を発見し可能性を探る絶好の機会となる場です。今回行政から障がい者雇用を推進する沖縄県警察が初出展し、鑑識課による指紋採取や防弾チョッキ着用などを体験。ワクワクした表情や真剣な眼差しでさまざまな企業の実際の業務に挑む参加者の姿が印象的でした。



「就職準備なんでも相談会」には、席が埋め尽くされるほど多くの方が来訪。就業生活支援者が、一人ひとりに寄り添い、就活の不安や悩みに対応しました。

熱心に自社の説明をする担当者とお仕事チャレンジに奮闘する参加者。未来を見据えて高まる皆さんの熱量は、地元のテレビ局などにより報道され、本イベントに寄せる期待は年々高まっています。



### 参加された企業は…

#### ●ウイングアーク1st(株)

障がいの有無で業務に差が出ないように本人の特性に配慮しつつ、可能性があれば様々な仕事に挑戦してもらう方針を採っています。新卒で入社して4年目になる障がいのある社員・神里知也さんが、自らの言葉で事業内容や自身の成長について説明しました。



ウイングアーク1st(株)

#### ●セコムスタティック琉球(株)

施設警備がメインであるため、お客様とコミュニケーションが取れる人材を求めて初出展。18～70歳ぐらいまでの方が働いており、障がいのある方へも幅広い世代の採用をアピールしました。



セコムスタティック琉球(株)

### 来場された方は…

#### ●沖縄県立陽明高等特別支援学校 教諭 砂川慎太郎さん

特設のウェブサイトを見て「この会社は何をしているの?」と主体的に調べる生徒も。会場での模擬面接やスーツ展示は、社会人としての振る舞いや身だしなみを意識するきっかけにもなっています。私たち教員にとっても、企業が求める人材を直接聞けることは大きなメリットとなりました。

#### ●沖縄県立やえせ高等支援学校 教諭 親泊昌彦さん

本校は軽度の知的障がいのある生徒が在籍し、全員が一般就労を目指しています。今回は、全学年29名が揃って参加。このフェアで多様な業種の方から直接話を聞き、お仕事体験もできるため、生徒が自分に合った働き方を見つける絶好の機会になりました。



砂川慎太郎さん



親泊昌彦さん

### ※1) 合同企業説明会出展企業一覧(16社・順不同)

株式会社 沖縄タイムス社/PwC Japan合同会社/ザ・テラスホテルズ株式会社/株式会社ソルパック/有限会社フィーチャー企画/医療法人おもと会/フィールズ株式会社/株式会社沖縄海邦銀行/株式会社サンエー/ウイングアーク1st株式会社/沖縄出光株式会社/有限会社大宮工機/セコムスタティック琉球株式会社/株式会社 那覇ミート/株式会社シーサー/沖縄ヤマト運輸株式会社

### ※2) おしごとチャレンジ体験会 出展企業一覧(15社/団体・順不同)

沖縄県警察/沖縄ホンダ株式会社/サンエー運輸株式会社/株式会社 琉新の風/島袋木工所/有限会社 たけ事務/PC SHOP IGE/株式会社 ワールドスタッフィング/株式会社 普天間商会/オフィスキャリアール/株式会社アイセック・ジャパン/株式会社ベルシステム24/株式会社かりゆし/株式会社ビースタイルチャレンジ/沖縄ヤマト運輸株式会社

# 東京2025デフリンピック (一財)全日本ろうあ連盟への支援

## (一社)全日本ろうあ連盟

### 国際手話通訳および手話言語アナウンサー等の普及に向けた取り組み

ヤマト福祉財団では、一般社団法人全日本ろうあ連盟に対し、東京2025デフリンピックを契機とした国際手話の普及活動に対する助成を行いました。本事業は、日本国内における国際手話の啓発を通じて、国内における国際手話の認知度を高め、大会後も映像メディア等の分野で障がい者の雇用・業務拡大が進む環境を整備するとともに、情報のバリアフリー化を推進させることで、障がいのある方でも生活しやすい社会環境の整備に寄与することを目的としています。

#### 1. 大会公式ウェブサイトにおける国際手話通訳(ワイプ映像)の付与

東京2025デフリンピックにおいては、公式ウェブサイト上の映像に、ワイプ形式で国際手話通訳を付与することで、海外や在日外国人のきこえないきこえにくい人向けへの情報保障を行うとともに、デフリンピック後も映像分野における障害者の雇用や業務拡大につながるよう、国内における国際手話の啓発を行いました。

#### 2. 海外各国向け問い合わせ窓口の設置

東京2025 デフリンピックの運営委員会内に各国向けの国際手話通訳による相談窓口を設置し、テレビ会議システムを通じた国際手話通訳者を配置することで、海外のきこえないきこえにくい参加者からの問い合わせに対し、国際手話でのコミュニケーションを行う環境を整備するとともに、国際手話通訳者(きこえない方)の活躍範囲の拡大につなげました。

#### 3. 手話言語アナウンサー、手話言語解説者、手話言語通訳者養成研修会の実施

デフリンピック準備運営本部が実施した競技動画配信の各競技決勝では、以下の3形態による情報保障が実施されました。

- ① 日本語音声による解説(日本手話言語通訳付)
- ② 日本語音声による解説(国際手話通訳付)
- ③ 日本手話言語解説(きこえないきこえにくい方による解説が中心。日本語音声付)

特に、③については、2024年度に当財団の助成により実施した「手話言語アナウンサー、手話言語解説者、手話言語通訳者養成研修会」の修了生が起用され、改めて大会本番に向けた養成研修を実施。大会当日は、手話言語による臨場感あふれる情報発信を行いました。



手話言語解説者の配置(©(公財)東京都スポーツ文化事業団)



手話言語解説の撮影風景

# ヤマトグループ ボランティアプロジェクトの活動報告

ヤマト福祉財団では、ヤマト運輸労働組合と連携しヤマトグループ社員が地域の障がい者と繋がり交流を深めていくボランティアプロジェクトを進めています。目的はヤマトグループ社員に、地域の障がい者施設が「どこにあり、どんな事業をしているか」を知っていただくことです。

今年度は農業編のボランティアとしてヤマト運輸労働組合東松山支部と長野支部のみなさんが、年2回の農作業をお手伝いしました。

地域福祉活動編は、「ヤマト繋がるプロジェクト」として、ヤマト運輸労働組合青年部と大学生が繋がり、地域の障がいのある方と交流するイベントを企画・運営しています。ヤマト繋がるプロジェクト<sup>※</sup>は、今年度で一旦終了となります。

※「ヤマト繋がるプロジェクト」は若者とさまざまな団体を繋いで地域活動に取り組む(NPO)アクションポート横浜とのコラボレーションで実現しました。

## 農業編／埼玉福興株式会社・ヤマト運輸労働組合東松山支部

- 日 時：2025年 5月31日 タマネギの調整作業  
2025年10月18日 サツマイモの収穫、オリーブの木の剪定、ケアガーデンの種蒔き等
- 場 所：埼玉福興(株) (埼玉県熊谷市)

埼玉県熊谷市の利根川沿いに広大な農地を有する埼玉福興(株)は、野菜の水耕栽培、深谷ネギの苗、白菜、タマネギ、300本を要するオリーブの栽培を10町(東京ドーム二つ分)の農地で行っています。5月の活動は、36名の組合員とご家族が参加。あいにくの大雨で予定していたジャガイモの収穫を屋内のタマネギの調整作業に変更しました。乾燥させたタマネギと茎をカットする作業は、普通なら4日間かけて行う作業です。それをヤマト労組組合員は、なんと2時間で完了。埼玉福興のみなさんからも驚きと感謝の言葉をいただきました。

春とはうって変わって秋晴れに恵まれた10月は、サツマイモの収穫に30名が汗を流しました。猛暑で固くなった土を丁寧に掘り起こし、傷をつけないように収穫。このサツマイモは地域の「子ども食堂」で提供され、ワークショップでも活用されます。サツマイモの収穫のあとは伸び放題になったオリーブの枝の剪定を行いました。

春・夏と継続して活動することで、ヤマト労組組合員のみなさんは施設の利用者さんとも仲良くなっています。東松山支部の坂本支部執行委員長は、「これを機会に夏のカンパだけでなく支部活動として農作業のお手伝いを続けていきたい」と話しています。



## 農業編／社会福祉法人くりのみ園・ヤマト運輸労働組合長野支部

- 日 時：2025年 6月 7日 タマネギの収穫  
2025年11月22日 タマネギ苗の定植
- 場 所：(社福)くりのみ園(長野県小布施町)

長野県小布施町の郊外で、5ヘクタールの農地を有し、有機農法で野菜栽培や養鶏を行う「社会福祉法人くりのみ園」。梅雨の晴れ間に恵まれた6月の活動は、35名の組合員とご家族、財団の山内理事長も参加しました。2.5反(約0.25ha)の畑で約8トンものタマネギを収穫。本来なら多大な時間を要する作業ですが、組合員さん達が一丸となって取り組むことで、わずか1時間半で完了させました。あまりのスピードに、急遽、別の畑でタマネギの茎切りや運搬作業まで追加で行い、利用者さんからも「みなさん手際が良くて本当に助かった」と感謝の言葉をいただきました。

リンゴ祭で賑わう11月には、次年度に向けたタマネギの苗植えに、ご家族を含め約40名が参加しました。圃場に3万本のタマネギの苗を1本ずつ丁寧に定植。くりのみ園のスタッフが定植機械を使っても丸1日かかる膨大な作業量ですが、組合員の結束力によりわずか2時間で完遂しました。赤ちゃんをおんぶして参加する親子三代の姿も見られるなど、和やかなながらも「ヤマトパワー」が光る一日となりました。

現場を体験した参加者からは、「普段スーパーで見る野菜が、これほどの苦労を経て届くことを実感した」「担い手不足解消のためにも協力を続けていきたい」といった声が上がっています。ヤマト労組長野支部青年部では、この「くりのみ園」との繋がりを大切に、今後も地域社会に貢献する定期的なボランティア活動として、この歩みを続けていく計画です。



## 地域福祉活動編／自分だけのオリジナルトートバッグ作り!

- 日 時：2026年1月17日
- 場 所：さくらカンパニー

連携施設／(NPO)こんちえると  
コーディネーター／横浜市野七里地域ケアプラザ

今年度の「ヤマト繋がるプロジェクト」は、オリジナルトートバッグ作りです。トートバッグは、利用者さんが行うポスティングにも活用できるということで、企画が進みました。トートバッグの両面にヤマト運輸労働組合青年部や大学生が作ったイラストや型紙を元に、色をのせて完成させます。片面にヤマト労組青年部がつくった型紙を、もう片面は「繋がるイラスト」を企画。9枚のトートバッグを並べると一つの大きな絵になる仕掛けです。



当日はレクリエーションとして借り物競走を実施。アイスブレイクで利用者さんと学生の緊張もほどけたところで、メインのトートバッグ作りを行いました。

8ヵ月間、ほぼ毎週施設に通って、企画を練り上げた学生は、報告の中で「自分たちがやりたい企画と利用者さんできることを通して、『一緒に何かを作る、一緒に笑う』といった経験ができました。障がいの有無に関係なく『人と人が繋がる』という瞬間に立ち会えたことが、私にとって大きな財産になった」と話します。



## 2025年度ヤマト繋がるプロジェクト報告会

- 日 時：2026年2月14日
- 場 所：かながわ県民センター 1501会議室

5年間の「繋がり」を描いた歩み  
ヤマト繋がるプロジェクトは卒業へ

2021年、コロナ禍という不安の中で産声を上げた「ヤマト繋がるプロジェクト」。ヤマト運輸労働組合青年部、(NPO)アクションポート横浜、そして大学生達が協力して、地域福祉に貢献するボランティアを企画・運営してきました。発足当初はオンラインの活動がメインでしたが、年を追うごとにその輪は広がり、これまでに延べ540名もの人々がこのプロジェクトに関わってきました。

5年目の集大成となった今年度は、オリジナルトートバッグ作りに加え、5年間の繋がりを形にする手ぬぐいプロジェクト、報告書の作成に取り組みました。

アクションポート横浜の高城代表理事は、「コロナ禍で労働組合さんを繋いでいただき、学生達とオンラインなどを使い、手探りでプロジェクトを続けてきました。繋がること自体に価値があり、その温かな雰囲気こそが財産。コロナ禍の逆境を、ポジティブなエネルギーに変えられた5年間だった」と振り返ります。

5年前、手探りで始まったこのプロジェクトも、今年度で大きな節目を迎えます。この活動を「終了」ではなく「卒業」と考え、プロジェクトという枠組みを離れたあとも、ここでの経験やつながりが、参加者一人ひとりの宝物になっていくことを願っています。



手ぬぐいプロジェクトでは、最終年を記念し、関わった施設やヤマト労働組合青年部、学生が描いたイラストをデザインした手ぬぐいを制作しました。



## **2. 2025年度決算概要**



# 貸借対照表

2026年3月31日現在

(2025年度)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	64,216,357	53,550,475	10,665,882
現金	1,008,185	638,710	369,475
普通預金	63,208,172	52,911,765	10,296,407
流動資産合計	64,216,357	53,550,475	10,665,882
2 固定資産			
基本財産			
投資有価証券	6,031,986,500	6,031,986,500	0
基本財産合計	6,031,986,500	6,031,986,500	0
特定資産			
復興・再生支援事業資金	4,000,000	4,000,000	0
特定資産合計	4,000,000	4,000,000	0
固定資産合計	6,035,986,500	6,035,986,500	0
資産合計	6,100,202,857	6,089,536,975	10,665,882
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	8,274,844	1,070,282	7,204,562
預り金	15,350	5,685	9,665
流動負債合計	8,290,194	1,075,967	7,214,227
負債合計	8,290,194	1,075,967	7,214,227
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	5,430,400,000	5,430,400,000	0
(うち基本財産への充当額)	(5,430,400,000)	(5,430,400,000)	0
(うち特定財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	661,512,663	658,061,008	3,451,655
(うち基本財産への充当額)	(601,586,500)	(601,586,500)	(0)
(うち特定財産への充当額)	(4,000,000)	(4,000,000)	(0)
正味財産合計	6,091,912,663	6,088,461,008	3,451,655
負債及び正味財産合計	6,100,202,857	6,089,536,975	10,665,882

# 正味財産増減計算書

2025年4月1日～2026年3月31日

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	163,507,000	163,507,000	0
基本財産受取配当金	163,507,000	163,507,000	0
受取会費	92,211,000	98,249,000	-6,038,000
賛助会費収入	92,211,000	98,249,000	-6,038,000
受取寄付金	69,617,500	73,430,875	-3,813,375
寄付金収入	69,617,500	73,430,875	-3,813,375
経常収益計	325,335,500	335,186,875	-9,851,375
(2) 経常費用			
事業費	304,979,140	323,489,635	-18,510,495
奨学金支給	22,800,000	23,100,000	-300,000
助成金支給	130,947,843	129,496,342	1,451,501
震災支援費	5,000,000	1,000,000	4,000,000
会場費	5,280,085	5,379,553	-99,468
運営費	9,892,324	11,667,596	-1,775,272
講師諸費	2,285,538	2,295,769	-10,231
システム費用	1,621,400	624,626	996,774
リーフレット作成費	757,900	730,461	27,439
就労支援費	4,000,000	4,000,000	0
委託費	19,646,510	14,918,060	4,728,450
ホームページ運営費	1,741,656	1,819,778	-78,122
贈呈費	26,097,197	30,933,715	-4,836,518
給料手当	19,911,300	19,978,951	-67,651
旅費交通費	13,239,567	15,138,929	-1,899,362
通信運搬費	28,938,783	45,126,793	-16,188,010
備品消耗品費	105,747	157,059	-51,312
図書印刷費	7,692,500	12,699,614	-5,007,114
事務室維持費	3,735,878	3,592,140	143,738
事務機器賃借料	594,000	0	594,000
会議費	494,878	627,129	-132,251
支払手数料	196,034	203,120	-7,086

科 目	当年度	前年度	増 減
管理費	16,904,705	18,322,725	- 1,418,020
給料手当	6,637,100	6,659,649	- 22,549
福利厚生費	374,839	380,270	- 5,431
会議費	259,062	236,173	22,889
旅費交通費	669,241	766,650	- 97,409
通信運搬費	2,278,283	2,580,353	- 302,070
消耗什器備品費	63,482	102,524	- 39,042
図書印刷費	4,213,756	5,180,698	- 966,942
事務室維持費	1,677,650	1,370,880	306,770
事務機器賃借料	419,995	700,713	- 280,718
賦課金	277,615	319,795	- 42,180
支払手数料	25,482	24,220	1,262
租税公課	8,200	800	7,400
経常費用計	321,883,845	341,812,360	- 19,928,515
当期経常増減額	3,451,655	- 6,625,485	10,077,140
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	3,451,655	- 6,625,485	10,077,140
一般正味財産期首残高	658,061,008	664,686,493	- 6,625,485
一般正味財産期末残高	661,512,663	658,061,008	3,451,655
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	5,430,400,000	5,430,400,000	0
指定正味財産期末残高	5,430,400,000	5,430,400,000	0
III 正味財産期末残高	6,091,912,663	6,088,461,008	3,451,655

# 正味財産増減計算書 内訳表

2025年4月1日～2026年3月31日

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計				
	公1 助成事業	公2 研修・育成事業	公3 顕彰事業	公4 広報事業	公5 復興・再生支援事業
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	0	0	0	0	0
基本財産受取配当金	0	0	0	0	0
受取会費	0	0	0	0	0
受取賛助会費	0	0	0	0	0
受取寄附金	0	0	0	0	0
受取寄附金	0	0	0	0	0
経常収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常費用					
事業費	163,266,491	38,829,237	13,865,082	41,148,826	5,323,830
奨学金支給	22,800,000	0	0	0	0
助成金支給	130,947,843	0	0	0	0
震災支援費	0	0	0	0	5,000,000
会場費	111,370	2,431,110	1,625,005	0	0
運営費	138,600	3,998,449	1,941,605	0	0
講師諸費	55,685	2,041,661	167,055	21,137	0
システム費用	594,000	6,600	0	0	0
リース料作成費	0	0	757,900	0	0
就労支援費	0	0	0	0	0
委託費	1,083,500	12,935,180	407,110	4,675,350	161,040
ホームページ運営費	0	0	0	1,741,656	0
贈呈費	0	460,000	3,000,000	178,640	0
給料手当	5,436,550	6,820,993	2,695,007	1,806,027	0
旅費交通費	29,355	8,162,477	1,758,715	660,195	155,096
通信運搬費	888,530	1,730,579	999,292	25,230,614	0
備品消耗品費	883	6,582	57,505	0	0
図書印刷費	386,650	6,600	426,010	6,790,740	0
事務室維持費	0	0	0	0	0
事務機器賃借料	594,000	0	0	0	0
会議費	82,435	194,086	22,788	37,157	6,814
支払手数料	117,090	34,920	7,090	7,310	880
管理費	0	0	0	0	0
給料手当	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	0	0	0	0
会議費	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0
通信運搬費	0	0	0	0	0
消耗什器備品費	0	0	0	0	0
図書印刷費	0	0	0	0	0
事務室維持費	0	0	0	0	0
事務機器賃借料	0	0	0	0	0
賦課金	0	0	0	0	0
支払手数料	0	0	0	0	0
租税公課	0	0	0	0	0
経常費用計	163,266,491	38,829,237	13,865,082	41,148,826	5,323,830
当期経常増減額	-163,266,491	-38,829,237	-13,865,082	-41,148,826	-5,323,830
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-163,266,491	-38,829,237	-13,865,082	-41,148,826	-5,323,830
一般正味財産期首残高	-943,660,474	-364,255,999	-77,836,812	-469,155,382	-20,222,008
一般正味財産期末残高	-1,106,926,965	-403,085,236	-91,701,894	-510,304,208	-25,545,838
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	-1,106,926,965	-403,085,236	-91,701,894	-510,304,208	-25,545,838

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計			法人会計	合 計
	公6 団体・活動支援等事業	共通	小 計		
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	0	130,805,600	130,805,600	32,701,400	163,507,000
基本財産受取配当金	0	130,805,600	130,805,600	32,701,400	163,507,000
受取会費	0	73,768,800	73,768,800	18,442,200	92,211,000
受取賛助会費	0	73,768,800	73,768,800	18,442,200	92,211,000
受取寄附金	0	55,694,000	55,694,000	13,923,500	69,617,500
受取寄附金	0	55,694,000	55,694,000	13,923,500	69,617,500
経常収益計	0	260,268,400	260,268,400	65,067,100	325,335,500
(2) 経常費用					
事業費	38,523,834	4,021,840	304,979,140	0	304,979,140
奨学金支給	0	0	22,800,000	0	22,800,000
助成金支給	0	0	130,947,843	0	130,947,843
震災支援費	0	0	5,000,000	0	5,000,000
会場費	1,112,600	0	5,280,085	0	5,280,085
運営費	3,813,670	0	9,892,324	0	9,892,324
講師諸費	0	0	2,285,538	0	2,285,538
システム費用	1,020,800	0	1,621,400	0	1,621,400
リーフレット作成費	0	0	757,900	0	757,900
就労支援費	4,000,000	0	4,000,000	0	4,000,000
委託費	351,330	33,000	19,646,510	0	19,646,510
ホームページ運営費	0	0	1,741,656	0	1,741,656
贈呈費	22,458,557	0	26,097,197	0	26,097,197
給料手当	3,152,723	0	19,911,300	0	19,911,300
旅費交通費	2,314,536	159,193	13,239,567	0	13,239,567
通信運搬費	57,219	32,549	28,938,783	0	28,938,783
備品消耗品費	1,089	39,688	105,747	0	105,747
図書印刷費	82,500	0	7,692,500	0	7,692,500
事務室維持費	0	3,735,878	3,735,878	0	3,735,878
事務機器賃借料	0	0	594,000	0	594,000
会議費	136,880	14,718	494,878	0	494,878
支払手数料	21,930	6,814	196,034	0	196,034
管理費	0	0	0	16,904,705	16,904,705
給料手当	0	0	0	6,637,100	6,637,100
福利厚生費	0	0	0	374,839	374,839
会議費	0	0	0	259,062	259,062
旅費交通費	0	0	0	669,241	669,241
通信運搬費	0	0	0	2,278,283	2,278,283
消耗什器備品費	0	0	0	63,482	63,482
図書印刷費	0	0	0	4,213,756	4,213,756
事務室維持費	0	0	0	1,677,650	1,677,650
事務機器賃借料	0	0	0	419,995	419,995
賦課金	0	0	0	277,615	277,615
支払手数料	0	0	0	25,482	25,482
租税公課	0	0	0	8,200	8,200
経常費用計	38,523,834	4,021,840	304,979,140	16,904,705	321,883,845
当期経常増減額	-38,523,834	256,246,560	-44,710,740	48,162,395	3,451,655
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-38,523,834	256,246,560	-44,710,740	48,162,395	3,451,655
一般正味財産期首残高	0	2,173,552,177	298,421,502	359,639,506	658,061,008
一般正味財産期末残高	-38,523,834	2,429,798,737	253,710,762	407,801,901	661,512,663
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	4,344,320,000	4,344,320,000	1,086,080,000	5,430,400,000
指定正味財産期末残高	0	4,344,320,000	4,344,320,000	1,086,080,000	5,430,400,000
III 正味財産期末残高	-38,523,834	6,774,118,737	4,598,030,762	1,493,881,901	6,091,912,663

# 財務諸表に対する注記

## 1. 重要な会計方針

- (1) 計算書類は公益法人会計基準（平成20年4月11日、改正平成21年10月16日 改正平成30年6月15日 内閣府公益認定等委員会）を適用している。
- (2) 固定資産の減価償却の方法  
有形固定資産……定率法
- (3) 消費税の会計処理  
税込み方式

## 2. 会計方針の変更 該当なし

## 3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。 (単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券（指定）	5,430,400,000	0	0	5,430,400,000
投資有価証券（一般）	601,586,500	0	0	601,586,500
小計	6,031,986,500	0	0	6,031,986,500
特定資産				
復興・再生支援事業資金	4,000,000	0	0	4,000,000
小計	4,000,000	0	0	4,000,000
合計	6,035,986,500	0	0	6,035,986,500

## 4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。 (単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財) (産からの充当額)	(うち一般正味財) (産からの充当額)	(うち負債に対応) する額
基本財産				
投資有価証券（指定）	5,430,400,000	5,430,400,000	0	0
投資有価証券（一般）	601,586,500	0	601,586,500	0
小計	6,031,986,500	5,430,400,000	601,586,500	0
特定資産				
復興・再生支援事業資金	4,000,000	0	4,000,000	0
小計	4,000,000	0	4,000,000	0
合計	6,035,986,500	5,430,400,000	605,586,500	0

## 5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当なし 重要性が希薄なため経費処理

## 6. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

## 7. 担保に供している資産

該当なし

## 8. 保証債務等の偶発債務

該当なし

## 9. 関連当事者との取引の内容

該当なし

## 10. 重要な後発事象

該当なし

# 附 属 明 細 書

1. 基本財産及び特定資産の明細は、財務諸表に対する注記に記載している。
2. 引当金の明細                    該当なし

以 上

2026年5月  
公益財団法人ヤマト福祉財団

# 2025年度事業報告 附属明細書

2025年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2026年5月  
公益財団法人ヤマト福祉財団

# 財 産 目 録

2026年3月31日 現在  
(2025年度)

(単位：円)

科 目	金 額	使用目的等
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	64,216,357	
現金	1,008,185	運転資金
普通預金	63,208,172	
みずほ銀行銀座中央支店	62,800,286	運転資金
ゆうちょ銀行	407,886	運転資金
流 動 資 産 合 計	64,216,357	
2 固定資産		
(1) 基本財産		
投資有価証券	3,554,500 株	共有財産であり
ヤマトホールディングス株式会社(株式)		うち80%を公益保有財産として運
株数	取得価額	用益を公益目的事業に使用し、20%
3,200,000 株	5,568,000,000 円	を管理業務のための財産として運用
354,500 株	776,195,475 円	益を法人会計に使用している。
5,430,400,000	601,586,500	
601,586,500		
(2) 特定資産		
復興・再生支援事業資金	4,000,000	(普通預金：みずほ銀行銀座中央支店)
		甚大な災害発生時の助成資金に充当
固 定 資 産 合 計	6,035,986,500	
資 産 合 計	6,100,202,857	
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	8,274,844	助成金翌期繰越分他
預り金	15,350	謝礼金に対する源泉所得税
流 動 負 債 合 計	8,290,194	
負 債 合 計	8,290,194	
正 味 財 産	6,091,912,663	

# 2025年度収支決算書

(2025年4月1日～2026年3月31日)

(単位：千円)

事業区分	事業内容	予算額			決算額			差額		
		事業会計	法人会計	総合計	事業会計	法人会計	総合計	事業会計	法人会計	総合計
■事業活動収入計 A		253,600	63,400	317,000	260,268	65,067	325,336	-6,668	-1,667	-8,336
	(1) 基本財産運用収入	130,800	32,700	163,500	130,806	32,701	163,507	-6	-1	-7
	(2) 寄付金収入 (カンパ・一般)	49,200	12,300	61,500	55,694	13,924	69,618	-6,494	-1,623	-8,118
	(3) 賛助会費収入	73,600	18,400	92,000	73,769	18,442	92,211	-169	-42	-211
(公1) 助成事業		164,300	0	164,300	163,266	0	163,266	1,034	0	1,034
	①奨学金	24,000	0	24,000	22,800	0	22,800	1,200	0	1,200
	②助成金	130,000	0	130,000	130,948	0	130,948	-948	0	-948
	i. 給料増額支援助成金	110,000	0	110,000	111,460	0	111,460	-1,460	0	-1,460
	ii. 障がい者福祉助成金	20,000	0	20,000	19,488	0	19,488	512	0	512
	③その他	10,300	0	10,300	9,519	0	9,519	781	0	781
(公2) 研修・育成事業		42,800	0	42,800	38,829	0	38,829	3,971	0	3,971
	①セミナー事業	16,500	0	16,500	16,385	0	16,385	115	0	115
	②育成・調査研究	18,600	0	18,600	22,445	0	22,445	-3,845	0	-3,845
	i. 農福経営実践塾	6,000	0	6,000	7,741	0	7,741	-1,741	0	-1,741
	ii. 販路拡大研究 (ヒロシマルクト)	2,300	0	2,300	950	0	950	1,350	0	1,350
	iii. 販路拡大研究 (勉強研究会)	6,000	0	6,000	4,309	0	4,309	1,691	0	1,691
	iv. 「働く力と工賃向上」 テキスト制作委員会	4,300	0	4,300	9,438	0	9,438	-5,138	0	-5,138
	③その他	7,700	0	7,700	7	0	7	7,693	0	7,693
(公3) 顕彰事業		15,000	0	15,000	13,865	0	13,865	1,135	0	1,135
	①ヤマト福祉財団小倉昌男賞 の贈呈	15,000	0	15,000	13,865	0	13,865	1,135	0	1,135

事業区分	事業内容	予算額			決算額			差額		
		事業会計	法人会計	総合計	事業会計	法人会計	総合計	事業会計	法人会計	総合計
(公4) 広報事業		43,200	0	43,200	41,149	0	41,149	2,051	0	2,051
	①財団 NEWS	37,300	0	37,300	37,600	0	37,600	-300	0	-300
	②ホームページ関連	3,000	0	3,000	1,743	0	1,743	1,257	0	1,257
	③その他	2,900	0	2,900	1,806	0	1,806	1,094	0	1,094
(公5) 復興・再生支援事業		5,000	0	5,000	5,324	0	5,324	-324	0	-324
	①復興・再生支援事業	5,000	0	5,000	5,324	0	5,324	-324	0	-324
(公6) 団体・活動支援等事業		47,600	0	47,600	38,524	0	38,524	9,076	0	9,076
	①団体・活動支援等事業	37,600	0	37,600	37,362	0	37,362	238	0	238
	i. ヤマト自立センター	5,000	0	5,000	4,610	0	4,610	390	0	390
	ii. 日本障害フォーラム	1,000	0	1,000	1,000	0	1,000	0	0	0
	iii. 「自然栽培パーティ」プロジェクト	8,000	0	8,000	7,436	0	7,436	564	0	564
	iv. 全Aネット	5,000	0	5,000	5,136	0	5,136	-136	0	-136
	v. ブリッジネットワーク(医療ケア)	6,000	0	6,000	5,967	0	5,967	33	0	33
	vi. ゆいジョブ!プロジェクト	6,000	0	6,000	6,547	0	6,547	-547	0	-547
	vii. ボランティアプロジェクト	3,200	0	3,200	2,871	0	2,871	329	0	329
	viii. その他	3,400	0	3,400	3,794	0	3,794	-394	0	-394
	②その他	10,000	0	10,000	1,162	0	1,162	8,838	0	8,838
(公1)～(公6) 共通費用		4,500	0	4,500	4,022	0	4,022	478	0	478
管理費		0	20,600	20,600	0	16,905	16,905	0	3,695	3,695
■事業活動支出計 B		322,400	20,600	343,000	304,979	16,905	321,884	17,421	3,695	21,116
■事業活動収支 A-B		-68,800	42,800	-26,000	-44,711	48,162	3,452	-24,089	-5,362	-29,452

# 監査報告書

公益財団法人ヤマト福祉財団

理事長 山内 雅喜 殿

2026年5月18日

公益財団法人ヤマト福祉財団

監事 新里智弘

監事 小川悦男

私たち監事は、2025年4月1日から2026年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次の通り報告致します。

## 1 監査の方法及びその内容

理事及び職員と意思の疎通を図り、情報の収集に努めるとともに、理事会その他の重要な会議に出席し、理事及び職員からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い当該事業年度に係る計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

## 2 監査意見

### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべて重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

### 3. 補 足



## 寄付金寄贈者一覧

寄付者名	摘要
ヤマトグループ企業労働組合連合会	
ヤマトグループお取引先様	ヤマト運輸（株）本社建替えに伴うご祝意（5社） （2024年度は84社 ※1）
	2025年度ヤマトグループ役員人事異動に伴うご祝意（38社） （2024年度は8社 ※2）
	宅急便発売50周年に伴うご祝意（4社）
	2026年度 ヤマトグループ役員人事異動に伴うご祝意（49社）
ヤマトグループOBOG 38名	
大川 清一様	個人
ケナフの会様	カレンダー提供に伴うご寄付

※1 ※2 2024年度から2025年度に亘り受領いたしました

## 賛助会員数一覧

(人)

会社名	会員数	会社名	会員数
ヤマトホールディングス株式会社	28	ヤマトオートワークス岩手株式会社	20
ヤマト運輸株式会社	60,359	ヤマトオートワークス沖縄株式会社	3
沖縄ヤマト運輸株式会社	430	ボックスチャーター株式会社	12
ヤマトコンタクトサービス株式会社	280	ヤマトボックスチャーター株式会社	906
ヤマト・スタッフ・サプライ株式会社	357	ヤマトマルチチャーター株式会社	255
湖南工業株式会社	293	神戸ヤマト運輸株式会社	28
ヤマトシステム開発株式会社	753	株式会社スワン	6
ヤマトリース株式会社	60	ヤマトグループ健康保険組合	17
ヤマトクレジットファイナンス株式会社	74	社会福祉法人ヤマト自立センター	18
ヤマトオートワークス株式会社	1,239	ヤマト運輸労働組合	47
ヤマトオートワークス北信越株式会社	7	合 計	65,192

# 役員名簿

## 理事

2026年6月15日現在

NO	役職名	氏名	
1	理事長	山内 雅喜	ヤマトホールディングス株式会社 参与
2	理事	蒲原 基道	日本社会事業大学 学長室 社会福祉研修センター客員教授
3	同	西堀 利	株式会社みずほフィナンシャルグループ 特別顧問
4	同	上野 容子	東京家政大学 名誉教授
5	同	菅野 敦	東京学芸大学 名誉教授
6	同	森下 明利	ヤマトグループ企業労働組合連合会 会長
7	同	佐々木敬史郎	元ヤマトオートワークス株式会社 代表取締役社長
8	同	井上 貴博	ヤマト福祉財団 常務理事

## 監事

NO	役職名	氏名	
1	監事	新里 智弘	公認会計士
2	同	小川 悦男	元ヤマトホールディングス株式会社 監査役

## 評議員

NO	役職名	氏名	
1	評議員	今野 由梨	ダイヤル・サービス株式会社 代表取締役社長
2	同	藤井 克徳	きょうされん 専務理事
3	同	朝日 雅也	埼玉県立大学 名誉教授
4	同	小野崎貴志	ヤマト運輸労働組合 副中央執行委員長
5	同	玉川 雅浩	元ヤマトシステム開発株式会社 代表取締役常務執行役員
6	同	白鳥 美紀	元ヤマト運輸株式会社 広報部長
7	同	秋山 佳子	ヤマト運輸株式会社 サステナビリティ推進部長

**福祉助成金選考委員**

NO	役職名	氏名	
1	選考委員	朝日 雅也	埼玉県立大学 名誉教授
2	同	原田 健児	一般財団法人日本財団電話リレーサービス 常務理事
3	同	小野崎貴志	ヤマト運輸労働組合 副中央執行委員長
4	同	小坂 正人	ヤマト運輸株式会社 執行役員
5	同	山内 雅喜	ヤマトホールディングス株式会社 参与

**ヤマト福祉財団小倉昌男賞選考委員**

NO	役職名	氏名	
1	選考委員	藤井 克徳	きょうされん 専務理事
2	同	蒲原 基道	日本社会事業大学 学長室 社会福祉研修センター客員教授
3	同	今野 由梨	ダイヤル・サービス（株） 代表取締役社長
4	同	森下 明利	ヤマトグループ企業労働組合連合会 会長
5	同	山内 雅喜	ヤマトホールディングス株式会社 参与



## **4. 2026年度事業計画書**

### **同 収支予算書**

### **資金調達及び設備投資の見込みについて**



# 2026年度 事業計画書

(自・2026年4月1日～至・2027年3月31日)

## はじめに

2025年に開催された「東京2025デフリンピック」は、スポーツの枠を超え、障がい者への理解促進と共生社会の実現に向けた意識変革につながる好機となりました。中でも、デジタルを活用した情報バリアフリーの普及は、誰もが等しく情報を享受できる社会に向けた第一歩となりました。また、福祉の現場では「就労選択支援」が開始され、障がいのある方本人が主体的に働き方を選択できるしくみが整うなど、障がい者を取り巻く環境は、緩やかながらも改善傾向にあります。

こうした中、当財団は中期的な事業計画に基づき、持続的かつ安定的な事業基盤の確立を目指します。2026年度においては、「障がい者の自立と社会参加を通じた共生社会の実現」に向け、事業ポートフォリオの最適化に着手します。とりわけ、障がい者の自立の根幹となる「働く場」の拡大や質的改善を着実に推進するため、「職域拡大」「賃金向上」「働きがい」の3点を重点施策に掲げ、各種助成事業の運営に注力します。

## (公1) 助成事業 【146,000千円】

### ① 奨学金 (21,000千円)

障がいのある大学生35名に対し、学業継続と自己実現を支援するため、奨学金を給付します。

### ② 助成金 (120,000千円)

#### i. 給料増額支援助成金 <110,000千円>

障がい者の給料増額に直結する設備・備品等の導入を支援するため、障がい者施設を対象とした助成を行います。

#### ii. 障がい者福祉助成金 <10,000千円>

障がい者福祉の増進に寄与する活動（講演会、研修、文化・スポーツ事業等）を支援するため、障がい者団体およびボランティア団体を対象とした助成を行います。

### ③ 運営費ほか (5,000千円)

## (公2) 研修・育成事業 【37,500千円】

### ① セミナー事業 (16,500千円)

障がい者の働く場で先駆的・効果的な実績を上げた方々を講師としてお招きし、障がい者の仕事や暮らしについて参加者と共に考察を深める「障がい者の働く場パワーアップフォーラム」を、東京・大阪の2会場で開催します。

### ② 育成・調査研究 (21,000千円)

#### i. 農福経営実践塾 <7,000千円>

農業に取り組む障がい者福祉事業所の管理者を対象に、経営の基礎を学び、理論と実践を両立させるための「農福経営実践塾」を継続します。農作物の栽培技術はもとより、事業所運営や就労支援のあり方について実践者より直接学ぶことで、経営力の強化と利用者の工賃向上につなげます。

#### ii. 販路拡大研究会 <8,000千円>

利用者の工賃向上を目的とし、多角的な販路開拓を行います。菓子製造事業所を対象とした研究会では、

市場ニーズの分析を通じて実効性の高い販売手法の確立を目指します。一方、広島においては、特定の品目に限定せず、地元企業との商談会を開催するなど地域密着型の販路拡大活動を強力に推進します。

iii. 『働く力と賃金向上』テキスト制作委員会 <6,000千円>

2025年度に作成したテキスト『働く力と工賃向上』を活用し、ステップアップセミナーを開催します。あわせて、働く意欲のある障がい者が社会で一層活躍できるよう、「働く力と工賃向上実践塾（仮称）」の立ち上げに向けた準備を開始します。

**(公3) 顕彰事業 【13,000千円】**

① ヤマト福祉財団小倉昌男賞の贈呈 (13,000千円)

障がい者の仕事づくりや雇用の創出、拡大、労働条件の改善などを積極的に推し進め、障がいのある方々に働く喜びと生きがいをもたらしている功労者を対象に「ヤマト福祉財団小倉昌男賞」を贈呈します。

**(公4) 広報事業 【26,000千円】**

① 財団 NEWS (22,000千円)

広報誌「ヤマト福祉財団NEWS」を年2回発行します。賛助会員をはじめとするヤマトグループ社員や関係諸団体へ向けて財団のビジョンや取り組みを紹介し、財団活動への理解と共感の輪を広げます。

② ホームページ (4,000千円)

デジタルならではの機動性を最大限に活用し、財団の活動に関する鮮度の高い情報を社会へ向けてリアルタイムに発信します。

**(公5) 復興・再生支援事業 【3,000千円】**

① 復興・再生支援事業 (3,000千円)

大規模災害等で被災した障がい者福祉事業所等の復旧・再生を迅速に支援するための資金枠を確保します。

**(公6) 団体・活動支援等事業 【41,600千円】**

① 団体・活動支援事業 (31,600千円)

障がい者の自立と社会参加を促進するための諸活動ならびにその活動を推進する団体を支援します。

i. ヤマト自立センター <5,000千円>

「卒業者の集い」の継続や「彩ジョブ」の本格運用等、ヤマト自立センターの活動を全般的にサポートし、障がい者の一般就労や働く喜びの実現を応援します。

ii. 日本障害フォーラムによる「障害者権利条約」に関する事業 <1,000千円>

障害者権利条約に関連し、日本障害フォーラム（JDF）が国連障害者権利委員会へ提出するNGOパラレルレポートの策定および国内での啓発活動について支援します。本事業は、公益財団法人助成財団センターを窓口とし、他の福祉系財団との共同助成を通じて、広範かつ多角的なサポートを展開するものです。

iii. 「自然栽培パーティ」プロジェクト <8,000千円>

休耕田や耕作放棄地を再生し、無農薬・無肥料による農業を推進する「自然栽培パーティ」の活動を

継続支援します。土地の再生と障がい者の就労を両立させるこの取り組みを、地域社会に新たな活力を生み出す農福連携の成功モデルとして、全国に展開してまいります。

iv. 全Aネットによる良質なA型事業所認定事業 <5,000千円>

良質なA型事業所の拡大に向け、適切な評価・審査活動を継続して支援します。また、同団体が主催するセミナーへの支援を通じ、A型事業所の安定運営や経営改善に直結するノウハウの普及を図り、障がい者の就労環境の質的向上を後押しします。

v. 医療的ケア児者と家族を支える団体の活動支援 <5,000千円>

NPO法人医療的ケア児者と家族を社会につなぐネットワーク（ブリッジネットワーク）への活動支援を通じ、医療的ケア児者とその家族が、日常生活のあらゆる場面で孤立することのない共生社会の実現を目指します。

vi. ゆいジョブ！プロジェクト <4,000千円>

沖縄の地元メンバーで構成される「ゆいジョブ！実行委員会」が企画・運営する障がい者と一般企業を繋ぐビジネスマッチング活動を継続支援します。地域に根ざした本活動を通じ、障がい者本人の一般就労に向けた機会を創出するとともに、主体的な社会参加の実現を推進します。

vii. ボランティアプロジェクト <3,000千円>

ヤマトグループの社会貢献活動の一環として、ヤマト運輸労働組合やグループ各社の協力のもと、農業ボランティアを通じた地域交流を推進します。グループ社員と障がいのある方々が共に土に触れ、農作業に従事する体験を分かち合うことで、地域社会とのより強固な絆を育みます。なお、NPO法人アクションポート横浜と共同で開催してきた地域福祉活動編は、2025年度をもって終了します。

viii. その他 <600千円>

② その他の事業（10,000千円）

年度内に発生する支援団体からの助成要請や協賛依頼に対し、機動的に対応するための予備費として計上します。

以 上

# 2026年度収支予算書

(2026年4月1日～2027年3月31日)

(単位：千円)

事業区分	事業内容	2026年度			2025年度		
		事業会計	法人会計	合計	事業会計	法人会計	合計
■事業活動収入計 A		248,800	62,200	311,000	253,600	63,400	317,000
	(1) 基本財産運用収入	130,800	32,700	163,500	130,800	32,700	163,500
	(2) 寄付金収入 (カンパ・一般)	47,440	11,860	59,300	49,200	12,300	61,500
	(3) 賛助会費収入	70,560	17,640	88,200	73,600	18,400	92,000
(公1) 助成事業		146,000	0	146,000	159,600	0	159,600
	①奨学金	21,000	0	21,000	24,000	0	24,000
	②助成金	120,000	0	120,000	130,000	0	130,000
	i. 給料増額支援助成金	110,000	0	110,000	110,000	0	110,000
	ii. 障がい者福祉助成金	10,000	0	10,000	20,000	0	20,000
	③運営費ほか	5,000	0	5,000	5,600	0	5,600
(公2) 研修・育成事業		37,500	0	37,500	35,600	0	35,600
	①セミナー事業	16,500	0	16,500	16,500	0	16,500
	②育成・調査研究	21,000	0	21,000	19,100	0	19,100
(公3) 顕彰事業		13,000	0	13,000	12,800	0	12,800
	①ヤマト福祉財団小倉昌男賞の贈呈	13,000	0	13,000	12,800	0	12,800
(公4) 広報事業		26,000	0	26,000	40,300	0	40,300
	①財団 NEWS	22,000	0	22,000	37,300	0	37,300
	②ホームページ関連	4,000	0	4,000	3,000	0	3,000
(公5) 復興・再生支援事業		3,000	0	3,000	5,000	0	5,000
	①復興・再生支援事業	3,000	0	3,000	5,000	0	5,000

事業 区分	事業内容	2026年度			2025年度		
		事業会計	法人会計	合計	事業会計	法人会計	合計
(公6) 団体・活動支援等事業		41,600	0	41,600	44,800	0	44,800
	①団体・活動支援事業	31,600	0	31,600	34,800	0	34,800
	i. ヤマト自立センター	5,000	0	5,000	5,000	0	5,000
	ii. 日本障害フォーラム	1,000	0	1,000	1,000	0	1,000
	iii. 「自然栽培パーティ」 プロジェクト	8,000	0	8,000	8,000	0	8,000
	iv. 全A ネット	5,000	0	5,000	5,000	0	5,000
	v. ブリッジネットワーク (医療的ケア)	5,000	0	5,000	6,000	0	6,000
	vi. ゆいジョブ!プロジェクト	4,000	0	4,000	6,000	0	6,000
	vii-1. ボランティア プロジェクト (農業編)	3,000	0	3,000	1,800	0	1,800
	vii-2. ボランティア プロジェクト (A P Y)	0	0	0	1,400	0	1,400
	viii. その他	600	0	600	600	0	600
	②その他の事業	10,000	0	10,000	10,000	0	10,000
	(公1)～(公6) 共通費用	25,000	0	25,000	24,300	0	24,300
	管理費	0	18,900	18,900	0	20,600	20,600
	■事業活動支出計 B	292,100	18,900	311,000	322,400	20,600	343,000
	■事業活動収支 A-B	- 43,300	43,300	0	- 68,800	42,800	- 26,000

# 資金調達及び設備投資の見込みについて

(2026年4月1日から2027年3月31日まで)

(1) 資金調達の見込みについて

当期中における借入れの予定はありません。

(2) 設備投資の見込みについて

当期中における重要な設備投資（除却又は売却を含む。）の予定はありません。

以上



